

なか の おお ぼら だいら い せき
中 野 大 洞 平 遺 跡 II

2007

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

序

岐阜県飛騨市は県最北端、富山県境に位置します。中野大洞平遺跡の所在する飛騨市古川町は、清流宮川に育まれた古川盆地とそれを取り囲む山々からなり、緑豊かな地に朝霧がたつ、自然に恵まれた町です。

飛騨市古川町を見渡してみると、数多くの遺跡が集中し、古くから豊かな文化が育まれたことが分かります。縄文時代では、早期の黒鉛入り押型文土器の出土で有名な沢遺跡、出土遺物が国の重要文化財に指定された中野山越遺跡、古墳時代では、二ツ塚古墳と呼ばれる県史跡大洞平第1号古墳・第2号古墳、豪華な馬具が出土した県史跡信包八幡神社跡前方後円墳、白鳳時代では、木簡など多数の文字資料が出土した県史跡杉崎廃寺跡など、数々の注目すべき遺跡があります。

このたび、岐阜県飛騨農林事務所による県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（古川南部2期地区）に伴い、当遺跡の発掘調査を実施しました。平成14・15年度にも当センターで発掘調査を行っており、縄文時代から奈良時代の集落跡や大洞平5号古墳の周溝を発見しています。今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡と弥生時代後期の方形周溝墓を発見しました。平成14・15年度の調査成果と合わせると、遺跡の全体像がより鮮明に浮かび上がり、土器や石器といった出土遺物からは、当時の人々の暮らしぶりを窺うことができます。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御理解と御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、飛騨市教育委員会、地元地区の皆様にご深く感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人岐阜県教育文化財団
文化財保護センター
所長 田口 久之

例 言

- 1 本書は、岐阜県飛騨市古川町中野に所在する中野大洞平遺跡（岐阜県遺跡番号21217-06535）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（古川南部2期地区）に伴うもので、岐阜県飛騨農林事務所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施した。
- 3 発掘調査は、伊藤秋男南山大学名誉教授の指導のもと、平成18年度に実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当は、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆及び編集は、渡邊稔が行った。
- 6 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量などの業務は株式会社興栄コンサルタントに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
岩田修、岩田崇、大石崇史、大宮次郎、小谷和彦、小淵忠司、長屋幸二、西村勝広
飛騨市教育委員会
- 9 本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。平成14・15年度の発掘調査との整合性を考慮し、日本測地系を使用した。
- 10 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄2004『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 11 調査記録及び出土遺物は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

目 次

序

例言

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と方法	1
第2章 遺跡の環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の概要	5
第1節 基本層序	5
第2節 遺構・遺物の概要	6
第3節 遺構及び遺構内出土遺物	11
第4節 遺物包含層出土遺物	24
第4章 まとめ	26
遺構一覧表	28
遺物観察表	30
参考文献	32
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	中野大洞平遺跡発掘調査区・グリッド設定図	2	第10図	7号住居跡出土遺物①	16
第2図	中野大洞平遺跡周辺の遺跡	4	第11図	7号住居跡出土遺物②	17
第3図	基本層序	5	第12図	8号住居跡	18
第4図	石器組成グラフ	6	第13図	8号住居跡付近遺物包含層出土遺物	18
第5図	調査区全体図①	8	第14図	2号方形周溝墓	19
第6図	調査区全体図②	9	第15図	2号方形周溝墓遺物出土状況	20
第7図	7号住居跡①	12	第16図	2号方形周溝墓出土遺物	20
第8図	7号住居跡②	13	第17図	土坑(SK598, SK517)	21
第9図	7号住居跡遺物出土状況・ 8号住居跡付近遺物包含層遺物出土状況	15	第18図	畝状遺構(ST616)	22
			第19図	土坑出土遺物	23
			第20図	遺物包含層出土遺物	25

表目次

第1表	平成14・15年度の発掘調査結果	1	第8表	中野大洞平遺跡竪穴住居跡一覧表	27
第2表	中野大洞平遺跡周辺の遺跡	4	第9表	遺構一覧表①	28
第3表	石器分類表	6	第10表	遺構一覧表②	29
第4表	出土遺物一覧表	7	第11表	遺物観察表(縄文土器)	30
第5表	7号住居跡・8号住居跡計測表	14	第12表	遺物観察表(石器)	31
第6表	2号方形周溝墓計測表	19	第13表	遺物観察表(縄文土器以外の土器)	31
第7表	県内の陥し穴状遺構の報告例	26			

写真図版目次

図版1	北区遠景 南区遠景	図版4	7号住居跡出土遺物①
図版2	7号住居跡・8号住居跡全景 7号住居跡石囲炉 7号住居跡周壁溝 7号住居跡出土遺物 8号住居跡	図版5	7号住居跡出土遺物② 2号方形周溝墓出土遺物
図版3	2号方形周溝墓全景 周溝(SD577) 周溝(SD504) 周溝(SD513)・土坑(SK598) 土坑(SK598)	図版6	8号住居跡付近遺物包含層出土遺物 土坑出土遺物 遺物包含層出土遺物

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査は、岐阜県飛騨農林事務所による県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（古川南部2期地区）に伴い実施したものである。この農道は、飛騨市の古川町と河合町を結ぶ農道として計画された。

事業予定地内には、かねてより中野大洞平遺跡の存在が知られていたが、平成12年度に岐阜県教育委員会が中野大洞平遺跡の試掘確認調査を行い、竪穴住居跡・溝などの遺構、弥生土器などの遺物を確認した。その結果を踏まえて、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会において本発掘調査が必要であると判断され、平成14・15年度に財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが、3,350㎡の本発掘調査を行った。この調査の報告書は、平成18年3月に刊行している。

今回の発掘調査は、平成14・15年度調査区と隣接する380㎡の範囲である。本調査は、岐阜県飛騨農林事務所から岐阜県教育委員会が委託を受け、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施した。

第1表 平成14・15年度の発掘調査結果

調査期間	調査区	調査面積	主な遺構	主な出土遺物
H14. 7/3 ～12/25	A	1,350㎡	竪穴住居跡3軒、方形周溝墓2基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品、石器、石製品
H15. 5/9 ～11/7	B,C,D,E	2,000㎡	竪穴住居跡3軒、焼礫集積遺構1基、階段状遺構1基	

第2節 調査の経過と方法

調査は、平成18年5月1日から開始し、平成18年6月29日に終了した。調査区は、農道を挟んで南北2箇所に分かれており、それぞれ南区・北区と名付けて調査を行った。

グリッドは、平成14・15年度の調査を踏襲する形（日本測地系座標を基準にして10m×10mに区画し、西から東にアルファベットを、南から北に算用数字を当てる方法）で設定した。南区の南北方向の数字に関しては、1の南側に99を割り当てた。遺構名は、前回の調査の遺構名と混同しないように、検出順の通し番号と遺構の性格を表す略号《方形周溝墓(SZ)、竪穴住居跡(SB)、溝(SD)、土坑(SK)、柱穴(P)、畝状遺構(ST)、炉跡(SF)》で表した。

表土掘削は重機を使用して行い、その後、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を人力作業により行った。遺構は、平面形や土層断面を実測し、観察所見を記録した。調査区の全体図や竪穴住居跡及び方形周溝墓の平面図等はデジタル測量により記録した。また、遺構検出作業に並行して遺構配置略測図を作成し、遺構配置の検討や遺構番号登録に活用した。遺物の取り上げは、遺物包含層から出土した遺物については、グリッド単位で層位ごとに一括して取り上げた。遺構内から出土した遺物については、原則として出土地点の座標を記録した上で取り上げた。

2 第1章 調査の経緯

現地での調査の経過は、以下のとおりである。

第1～4週(5/1～5/26)

5月1日、調査開始。重機による表土掘削。

表土掘削後、遺物包含層掘削。遺構検出。遺構実測。写真撮影。

第5～7週(5/29～6/16)

遺構掘削。遺構実測。写真撮影。

第8週(6/19～6/24)

遺構掘削。遺構実測。写真撮影。

6月22日、伊藤秋男指導調査員、現場指導。6月24日、現地説明会開催(参加者128名)。

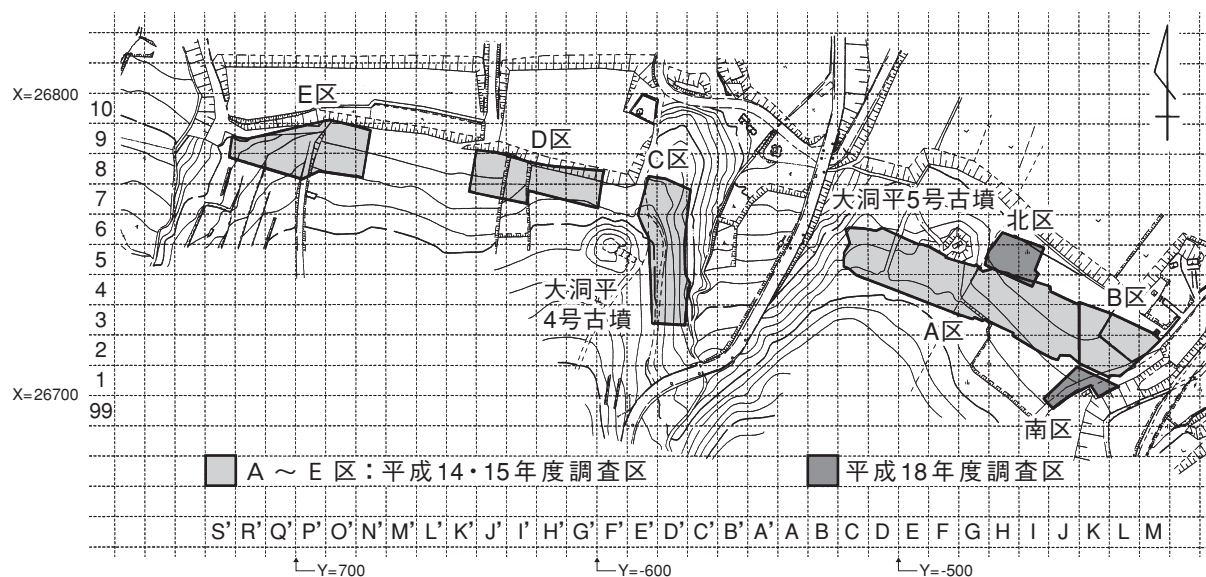
第9週(6/26～6/29)

遺構断ち割り。写真撮影。

6月26日、岐阜県教育委員会社会教育文化課による完了検査。6月29日、現場撤収。

現場撤収後、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター飛騨出張所において、整理作業及び報告書作成作業を行った。発掘調査及び整理作業の体制は、以下のとおりである。

理事長	高木正弘
副理事長	高橋宏之
副理事長	中島正和(4～11月)
副理事長	伊藤克己(11～3月)
常務理事兼センター所長	田口久之
経営課長	後藤 智
調査部長	川部 誠
飛騨出張所長	谷口陽一
担当調査員	渡邊 稔
整理作業従事者	上田里香 垣添敦子 清田由美子 瀬戸幸子 前畑裕美 村田明美 柚村幸子 横山美寧子 脇淵純子



第1図 中野大洞平遺跡発掘調査区・グリッド設定図(1:25,000)

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

中野大洞平遺跡の位置する飛騨市古川町は、宮川流域の沖積低地とそれを取り巻く標高1,000m前後の山地から形成される。沖積低地は、500mから1,500mほどの幅を持って、南に隣接する高山市国府町から連続して広がっており、一般に古川盆地と呼ばれている。

沖積低地を取り巻く山地は、船津花崗岩類や濃飛流紋岩、それに手取層などからなる。船津花崗岩類は、飛騨地方北部を中心に広く分布している。濃飛流紋岩は、火山活動によって形成された火砕流の堆積物であり、恵那山付近から白川村に至る岐阜県の面積の3分の1に及ぶ広大な範囲に分布しており、当遺跡周辺では南側に広がっている。手取層は、礫岩、砂岩、泥岩からなり、宮川を東西に横切るように分布しており、当遺跡の西側に広がっている。

当遺跡は、宮川左岸の段丘と扇状地上に立地する。遺跡の立地する段丘下端は宮川による沖積低地と比較して約30mほど高くなり、扇状地地形の標高510mラインと重なる。また、沖積低地に続く幾筋もの狭い谷と埋没谷が、この扇状地を縦に分断している。地形としては、北東（川側）に傾斜し北向きの斜面であるが、遺跡近辺に高い山があまりないため、日当たりは良い。当遺跡からは、北東側に古川盆地を見渡すことができる。

遺跡全体は、西北西－東南東2km、南南西－北北東0.4～1kmの広がりを持っているが、今回調査した範囲はその東側に位置している。調査区域は、農道を挟み南側と北側に分かれており、調査前は畑地及び荒蕪地であった。

第2節 歴史的環境

平成14・15年度の発掘調査の結果、中野大洞平遺跡は縄文～奈良時代にかけての集落跡であることが判明している。周辺に所在する同時期の主な遺跡について略記する（第2表、第2図）。

縄文時代 沢遺跡、岡前遺跡、御番屋敷遺跡、中野西ヶ洞遺跡、中野宮ヶ洞遺跡、中野トンビヶ洞遺跡、中野山越遺跡などの遺跡が所在する。山麓斜面に位置する沢遺跡は、縄文時代早期の黒鉛入り押型文土器が出土している。当遺跡の東側に位置する中野山越遺跡では、出土遺物362点が国の重要文化財に指定されている。御番屋敷遺跡は、昭和29年に縄文時代中期の竪穴住居跡が発見され、「御番屋敷遺跡先史時代住居跡」として県史跡に指定された。飛騨地方の発掘史の上で注目される遺跡である。

弥生時代 平成14・15年度の中野大洞平遺跡発掘調査で、飛騨独自の弥生土器（横羽状文甕）や弥生時代の竪穴住居跡を確認している。弥生時代の遺跡としては、飛騨地方で、高山市の塚田遺跡・安城寺遺跡・箕輪石橋遺跡・赤保木遺跡・薬師野遺跡・向畑遺跡などが発掘調査されている。方形周溝墓が見つかった遺跡としては、高山市のツルネ遺跡があげられる。隅丸方形の方形周溝墓であり、ガラス小玉などの遺物が出土している。

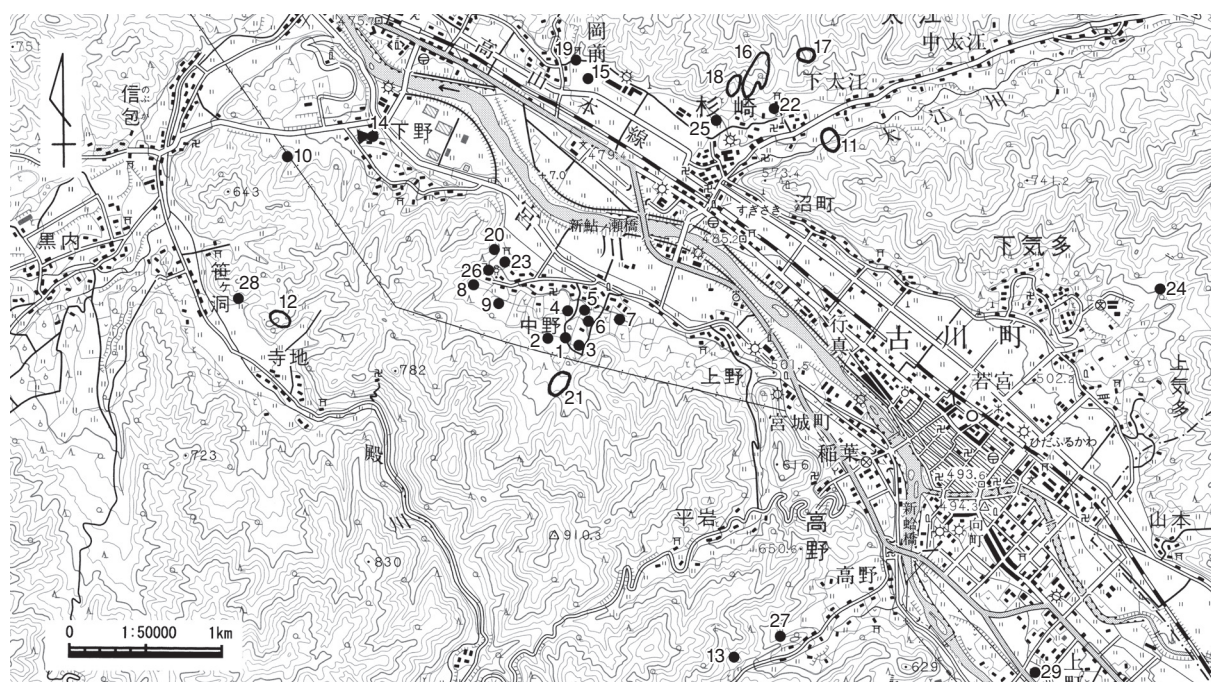
古墳時代 宮川の河岸段丘上に古墳が集中している。高野光泉寺古墳と高野水上古墳は、巨石を用

いた横穴式石室を持つ円墳として知られている。両古墳とも7世紀の築造と考えられる。信包八幡神社跡前方後円墳は、古川盆地を見下ろす段丘上に位置する。全長64mの前方後円墳で、後円部に割石積の横穴式石室が築かれ、金銅製の馬具類等が出土している。また、中野大洞平遺跡の周りには、5基の古墳が点在している。そのうち、中野大洞平遺跡の西方にある大洞平第1号古墳・第2号古墳は、通称「二ツ塚古墳」と呼ばれている。上町遺跡からは、古墳時代前期の隅丸方形の方形周溝墓や、多数の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が見つかった。

古代 白鳳時代の古代寺院としては、宮川右岸に所在する寿楽寺廃寺跡と杉崎廃寺跡があげられる。寿楽寺廃寺跡は、飛騨地方最古の創建と考えられる寺院跡である。「高家寺」と墨書のある須恵器、鴟尾、塑像などが出土している。杉崎廃寺跡は、塔・金堂・講堂・中門・鐘楼・僧坊を備えた本格的伽藍が見つかっており、木簡や「見寺」と墨書のある須恵器などが出土している。西ヶ洞廃寺跡は、平安時代の山林寺院跡で、鍛冶関連遺構を検出している。古代の集落跡としては、岡前遺跡、中野大洞平遺跡、中野山越遺跡があげられる。岡前遺跡は、飛騨地方で初めて和同開珎が出土したことで注目される。

第2表 中野大洞平遺跡周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	大洞平第1号古墳	古墳	9	中野祢宜ヶ洞古墳	古墳	16	太江多度古墳群	古墳	23	中野宮ヶ洞遺跡	縄文
2	大洞平第2号古墳	古墳	10	信包中原田古窯跡	奈良	17	太江前平古墳群	古墳	24	沢遺跡	縄文
3	大洞平3号古墳	古墳	11	太江中ヶ野古墳群	古墳	18	稲荷神社古墳群	古墳	25	御番屋敷遺跡	縄文
4	大洞平4号古墳	古墳	12	寺地西ヶ洞古墳群	古墳	19	岡前遺跡	縄文・平安	26	中野西ヶ洞遺跡	縄文
5	大洞平5号古墳	古墳	13	高野光泉寺古墳	古墳	20	中野宮田古墳	古墳	27	高野水上古墳	古墳
6	中野大洞平遺跡	縄文～奈良	14	信包八幡神社跡 前方後円墳	古墳	21	中野山越古墳群	古墳	28	西ヶ洞廃寺跡	平安
7	中野山越遺跡	縄文～平安				22	太江遺跡・ 寿楽寺廃寺跡	古墳～ 平安	29	上町遺跡	古墳～ 平安
8	中野トビヶ洞遺跡	縄文	15	杉崎廃寺跡	白鳳						



第2図 中野大洞平遺跡周辺の遺跡

第3章 調査の概要

第1節 基本層序

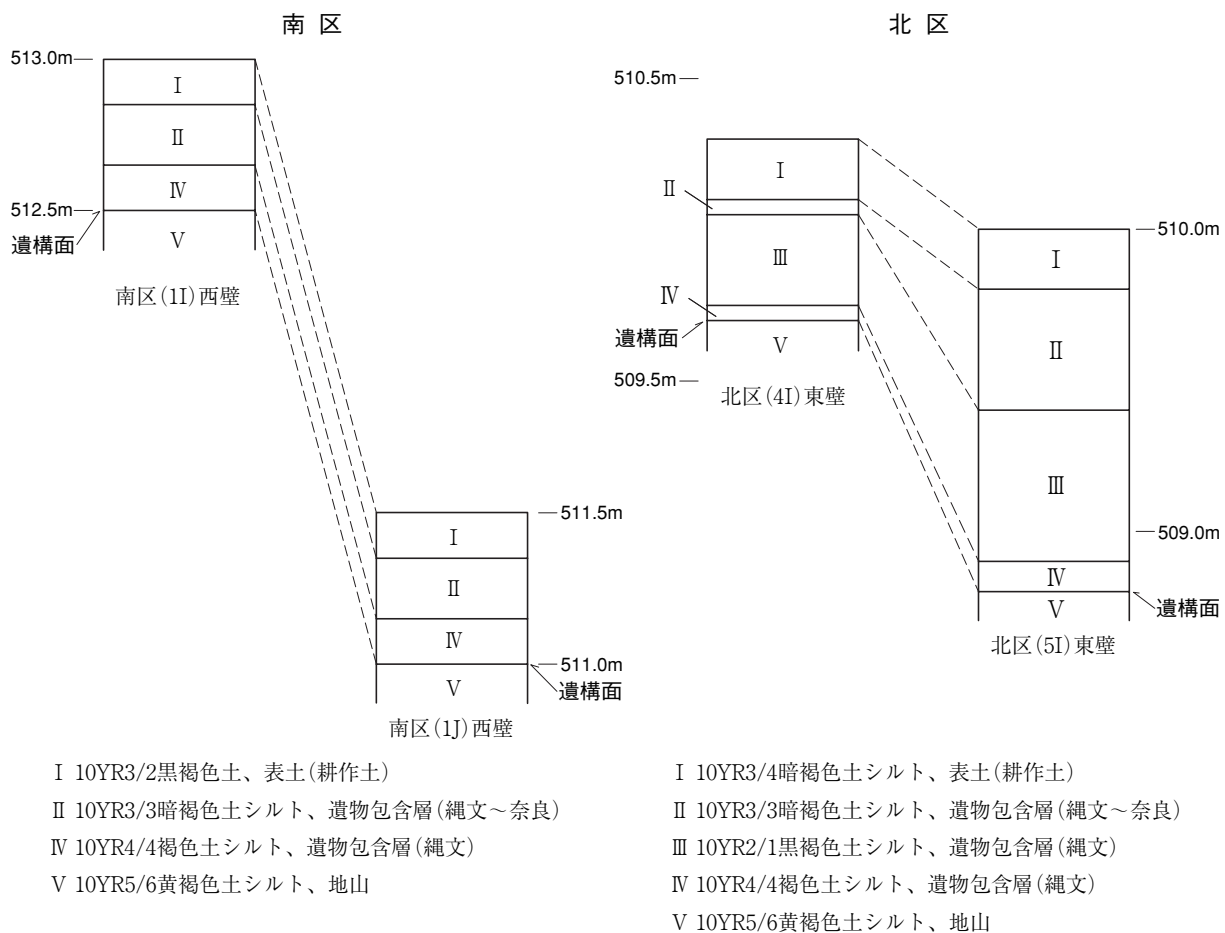
中野大洞平遺跡は、緩やかな扇状地上に立地する。調査区は、平成14・15年度調査区を挟んで、南区と北区の2か所に分かれている。基本層序は、南区と北区で地形により若干違いがみられる。北区は扇状地の端にあたり、段丘崖に向かって谷地形となっている。北区の谷地形の範囲には、縄文時代に埋没した遺物包含層（第Ⅲ層）が堆積している。この層は、南区には存在しない。この点を踏まえて、基本層序を述べる。

第Ⅰ層（南区－層厚約15cm、北区－層厚約20cm）は表土である。畑に伴う耕作土である。

第Ⅱ層（南区－層厚約20cm、北区－層厚約5～40cm）は、縄文時代から奈良時代にかけての遺物包含層である。南区の1L及び東壁では、攪乱が著しい場所があり第Ⅱ層を確認できない部分もある。

第Ⅲ層（北区－層厚約30～50cm）・第Ⅳ層（南区－層厚約15cm、北区－層厚約5～10cm）は、縄文時代の遺物包含層で、縄文時代早期から晩期までの遺物を包含している。

第Ⅴ層は、黄褐色土で遺物を含まない地山である。調査終了後に、第Ⅴ層の断ち割り調査を実施し、縄文時代の遺構面が最下層であることを確認した。



第3図 基本層序

第2節 遺構・遺物の概要

今回の調査では、南区で竪穴住居跡2軒、土坑60基、柱穴1基、北区で方形周溝墓1基、土坑24基、畝状遺構1基を確認した。遺構は、両区とも地山(第V層)上面で検出した(第5図)。

遺物は、縄文土器830点、弥生土器26点、土師器4点、須恵器10点、近世陶磁器1点、石器98点、計969点出土した(第4表)。

縄文土器の分類は、文様要素・文様構成・型式等を考慮した上、平成14・15年度調査における分類基準に従った。今回の調査では、下記のゴシック体で示した縄文土器を確認している。後期か晩期か判断しかねる土器については、4・5群と表した。

石器は、器種ごとに分類した(第3表)。遺構内出土51点、遺物包含層出土47点、計98点出土した。

1群土器:縄文時代早期

(1類:押型文、2類:その他)

2群土器:縄文時代前期

3群土器:縄文時代中期

(1類:信州系、2類:北陸系、3類:その他)

4群土器:縄文時代後期

5群土器:縄文時代晩期

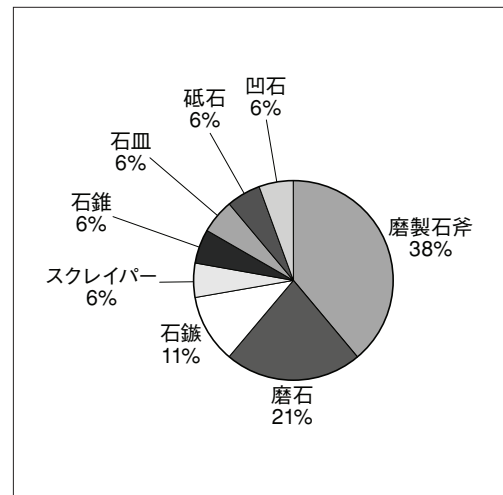
4・5群土器:縄文時代後晩期

6群土器:その他の土器、土製品

(1類:縄文、撚糸・条線のみ、2類:無文、

3類:時期・型式名等不明、

4類:浅鉢、5類:底部、6類:土製品)



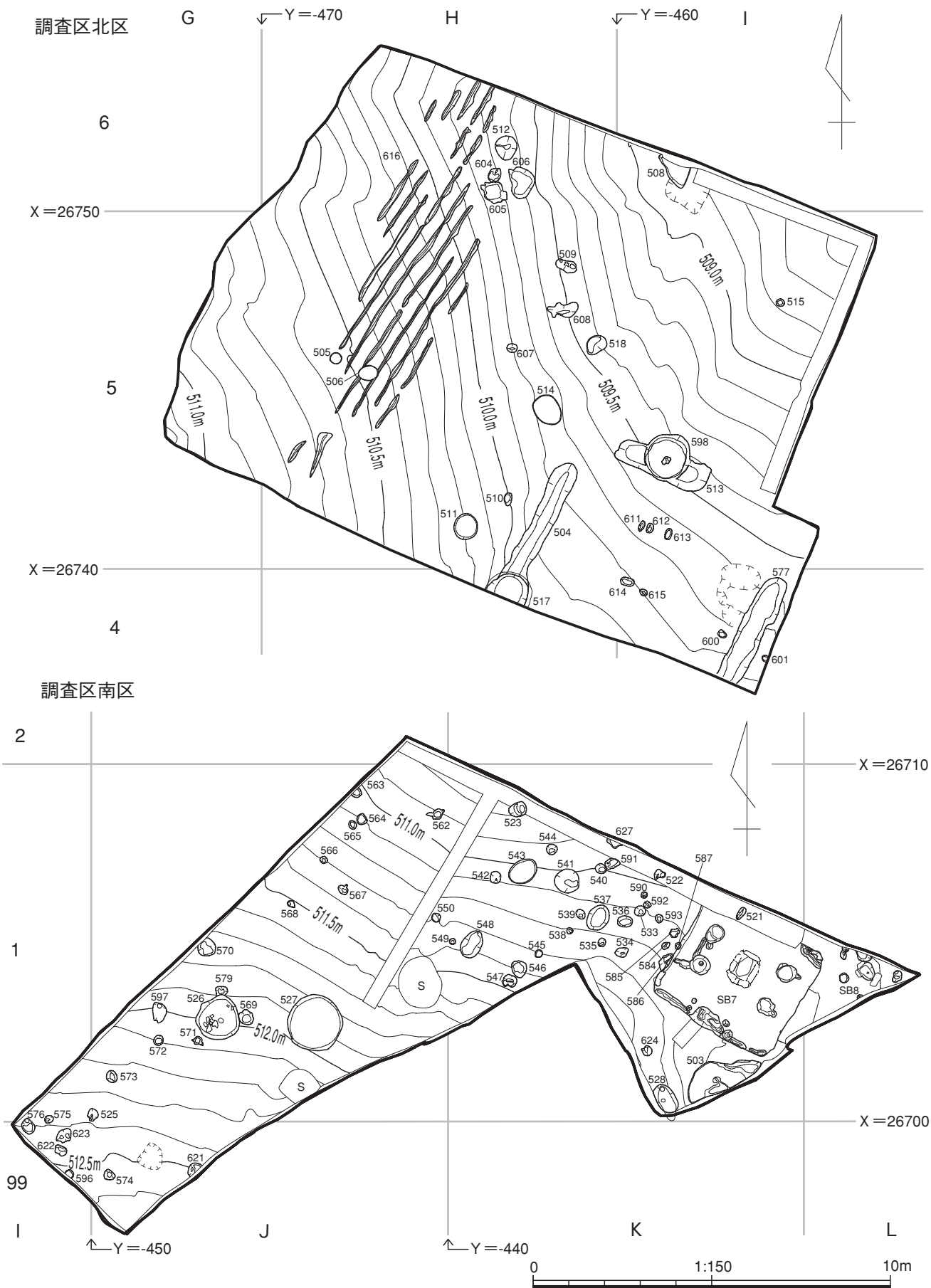
第4図 石器組成グラフ(剥片除く)

第3表 石器分類表

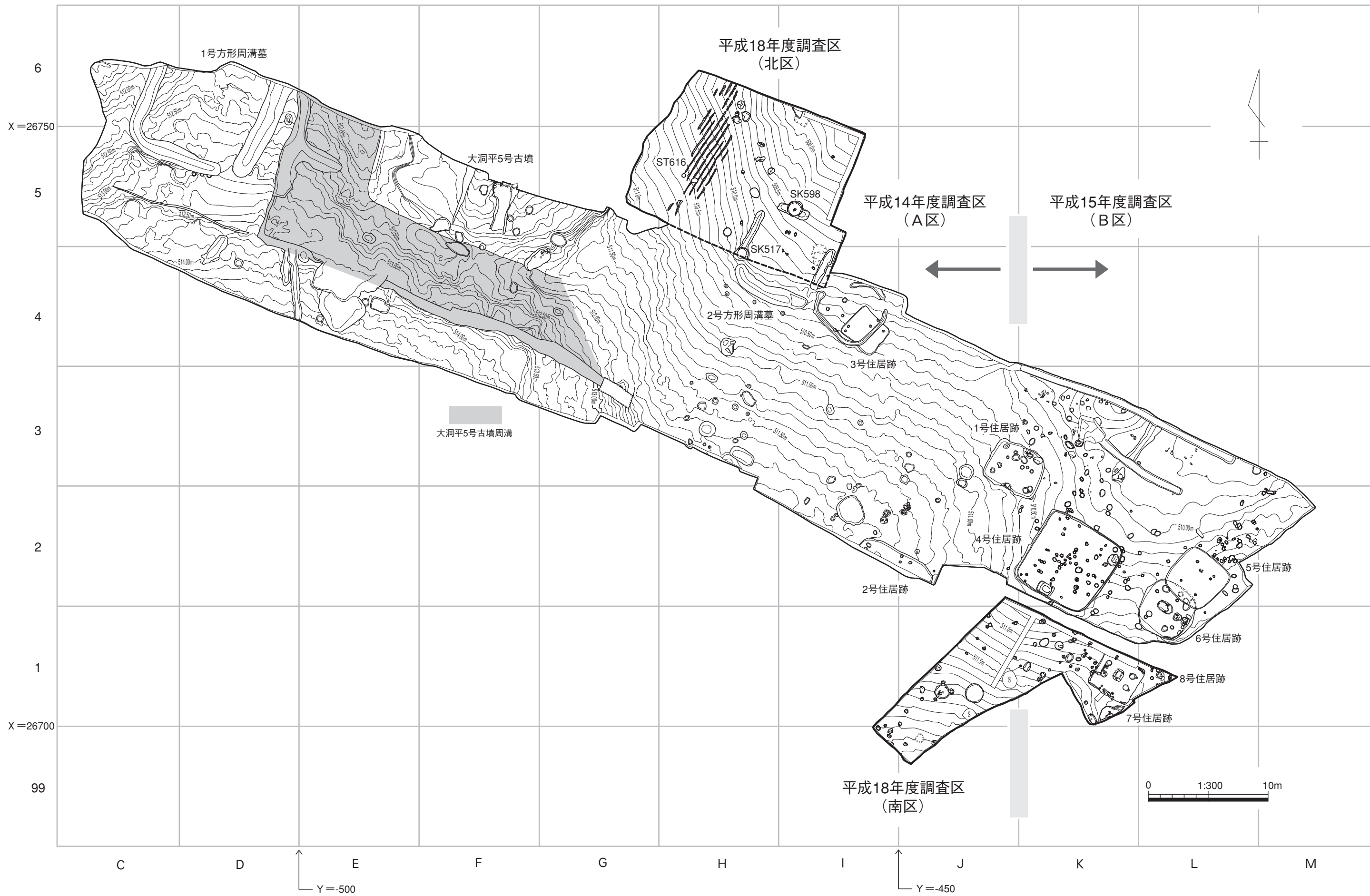
遺構及び グリッド	石鏃	石錐	スクレ イパー	磨製 石斧	凹石	磨石	石皿	砥石	剥片						合計
									下呂石	チャート	黒曜石	玉髓	砂岩	その他	
遺 構	SB7	2	1	5		2	1		17	10		1		2	41
	SK608								1						1
	SK548									1					1
	SK527								2	1					3
	SK503									1					1
	SK522										1				1
	SK591								1						1
	SK531								1						1
SK532								1						1	
遺 物 包 含 層	1K		1		1	2		1	12			1	1		19
	5H				1				6	1					8
	5I								6	1				1	8
	1J								2						2
	4H								1						1
	4I									1					1
	6I				1				1						2
	6H								1	1					2
	1L									2					2
	99J								1						1
99I								1						1	
合計	2	1	1	7	1	4	1	1	54	19	1	2	1	3	98

第4表 出土遺物一覧表

遺構及び グリッド	縄文土器												弥生土器	土師器	須恵器	近世陶磁器	石器	合計	
	1群		3群			4群	4・5群	6群											縄文合計
	1類	2類	1類	2類	3類			1類	2類	3類	4類	5類							
SB7	28		5	1	103		2	105		137	1	1	383	1				41	425
SB8				1				2				1	4	1					5
SD504													0	2					2
SD513									2				2	3					5
SD577								2	3	5			10	5					15
SK503					4					3			7					1	8
SK508					1					1			2						2
SK509						1							1						1
SK511										1			1						1
SK512					1								1						1
SK517								1					1						1
SK518					8								8						8
SK520								2					2						2
SK522								3					3					1	4
SK526					1					2			3					3	3
SK527					4								4					3	7
SK528									1	7			8	1					9
SK530										2			2						2
SK531													0					1	1
SK532													0					1	1
SK537					1								1						1
SK540					1								1						1
SK541					6			1					7						7
SK543										1			1						1
SK544					3								3						3
SK546					1					3			4						4
SK548					1								1					1	2
SK563										1			1						1
SK567					1					1			2						2
SK568					1								1						1
SK581					2								2						2
SK584					1		1						2						2
SK590					1					1			2						2
SK591					1			5					6					1	7
SK592										1			1						1
SK593										1			1						1
SK604										1			1						1
SK608													0					1	1
SK610										3			3						3
SK627										1			1						1
小計	28	0	5	1	143	1	3	121	8	170	1	2	483	13	0	0	0	51	547
1I					1								1						1
1J		10			14			17	1	13			55			1		2	58
1K	9	1			67	1	1	25	6	29			139					19	158
1L	2				7					5			14		2	1	1	2	20
2J									1				1						1
4H													0					1	1
4I					2			2	2	9			15					1	16
5H					26			9	2	16			53	4		2		8	67
5I					19			2	4	10			35	5		2		8	50
6H					2					5			7	4		1		2	14
6I								2		6			8					2	10
99I													0					1	1
99J										4			4					1	5
不明					10				3	2			15			2	3		20
小計	11	11	0	0	148	1	1	57	19	99	0	0	347	13	4	10	1	47	422
総計	39	11	5	1	291	2	4	178	27	269	1	2	830	26	4	10	1	98	969



第5図 調査区全体図 ①



第6図 調査区全体図 ② (平成14年度調査区A区・15年度調査区B区も含んだ全体図)

第3節 遺構及び遺構内出土遺物

(1) 7号住居跡 (SB7) (第7～9図、第5表)

南区東側の1Kグリッドに位置し、地山上面で検出した。縄文時代中期の竪穴住居跡で、8号住居跡と切り合っている可能性がある。

平面形は、隅丸方形である。深さは南壁で約0.25m、北壁では0.03mを測る。中央で1.0m×0.7mの石囲炉を確認した。石囲炉は、内面全体に被熱痕が残り、西側と南側の炉石に磨面を確認した。南側炉石は、内側にも磨面があり、砥石を炉石に転用した可能性がある。

床面で、石囲炉を囲むように柱穴4基、南壁付近に柱穴4基を確認した。南壁付近で、周壁溝と土坑 (SK557) を確認した。また、北東の隅で周壁溝を、西壁と2本の柱穴を囲むように溝を確認した。床面には、柱穴・周溝・周壁溝・土坑・西側の1.2m×0.4mを除く範囲で、貼床面を確認した。

SK557は、入口施設として石などが置いてあったと考えられ、住居廃絶後に抜き取った可能性がある。西側の1.2m×0.4mの範囲は貼床面がなく、溝と柱穴に囲まれた物置スペースとして使われていたと考えられる。溝と柱穴の切り合いははっきりとせず、柱を抜き取った後に埋土が混入したと考えられる。南壁付近の柱穴2基 (P559、P561) は、周壁溝 (SD582、SD588) を壊して柱を立てた跡であり、P558、P560と共に入口に伴う施設だと考えられる。

出土遺物 (第10・11図)

縄文土器、弥生土器、石器が出土した。

縄文土器は、1群 (早期)、3群 (中期)、4・5群 (後晩期)、6群 (その他) が出土した。

1群は、1類の押型土器が28点出土した。1と2は市松文であり、原体は2単位である。同一個体の可能性がある。1群の土器は、小破片が多く、住居埋土への混入と考えられる。

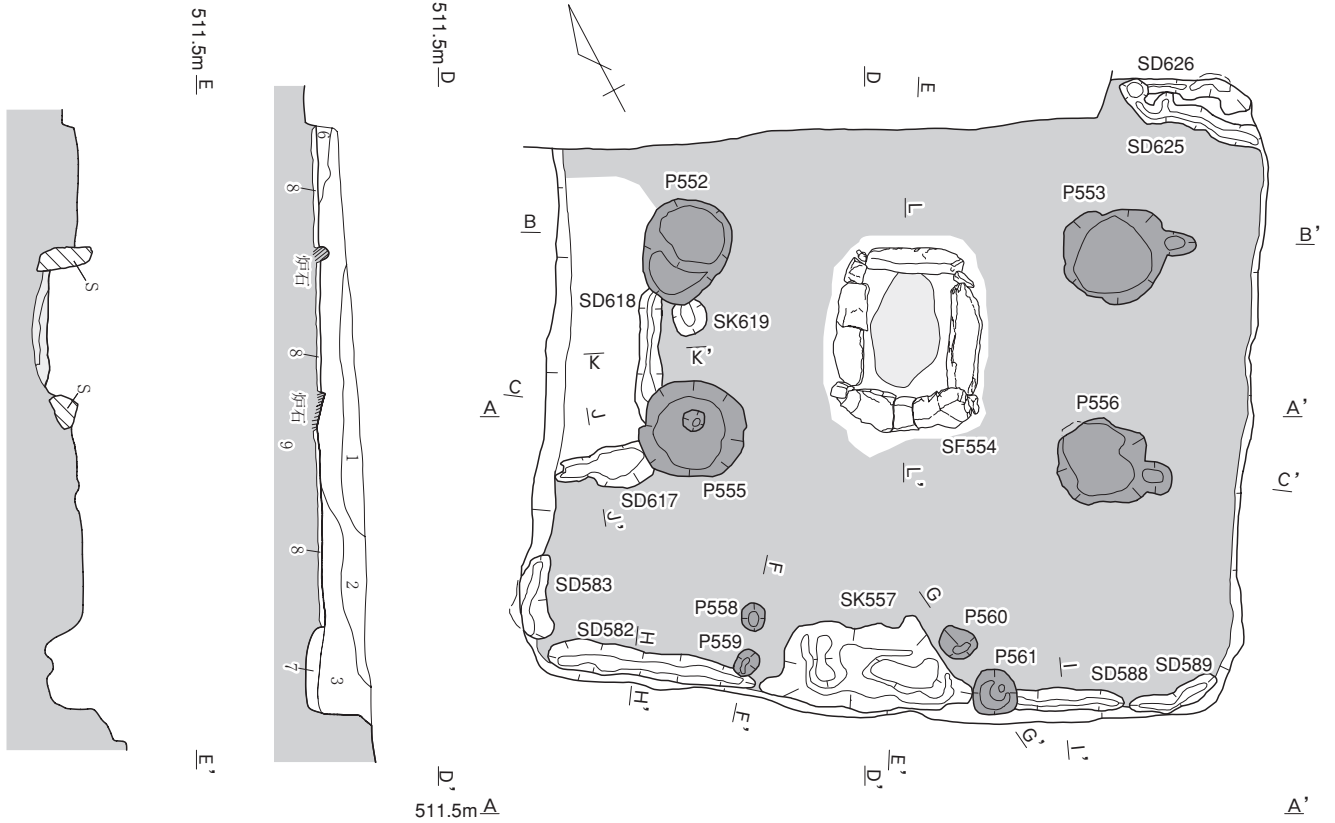
3群は、1類5点、2類1点、3類103点、計109点出土した。4, 9, 10, 11は隆帯や沈線による文様が施され、信州系の土器である。4は交互刺突と矢羽根状沈線文、9は横位の沈線文の下部に縦位の沈線文、10は横位に隆帯が施されている。11は頸部に縦位の沈線文が施されている。3は口縁部に櫛歯状工具により刺突列が施され、北陸系の土器である。5はキャリパー器形の口縁部である。口縁部から屈曲部へかけて沈線による楕円区画がある。6は胴部に、条線を地文とした上に弧状の沈線文が施される。西日本から東海地方にかけて広い範囲で認められる模様である。7は胴部に、縦横の隆帯と縦横の半截竹管による沈線文が施される。8は縦位の矢羽根状沈線文の下部に縦位の沈線文が施される。12～16は胴部に縄文を施文後、半截竹管による沈線文が施される。17, 18は胴部に縄文が施文されており、17は上部に縦位の沈線文が施される。

4・5群は、2点出土した。小片のため、図示しなかった。住居内埋土への混入と考えられる。

6群は、1類105点、3類137点、4類1点、5類1点、計244点出土した。21は胴部に捺糸文が施されており、床面直上から出土した。25は胴部で無文の浅鉢である。26は底部で爪痕がみられる。

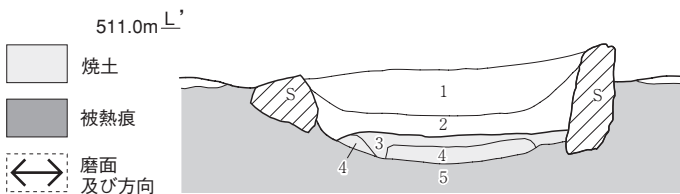
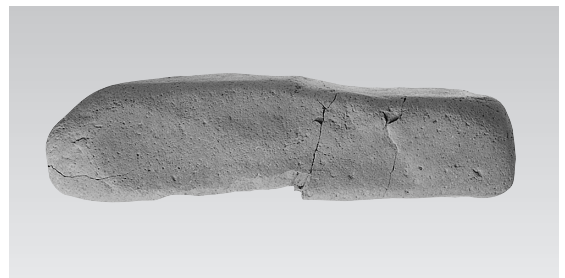
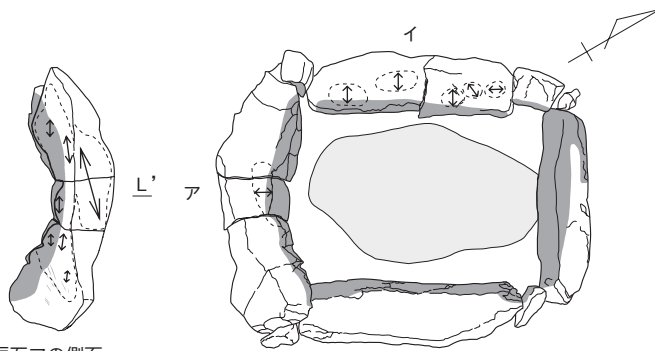
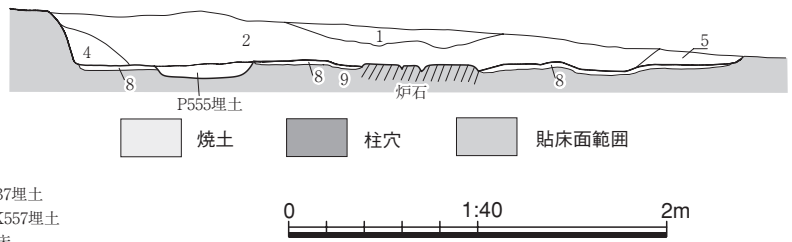
1群～6群までの中で主体となったのは3群の土器であり、7号住居跡の年代は、縄文時代中期と考えられる。

弥生土器 (27) は、1点出土した。6号住居跡から出土した弥生土器と同一個体の可能性がある¹⁾。住居埋土中への混入と考えられる。



SB7

- 1 10YR3/3暗褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり、炭化物混入)、SB7埋土
- 2 10YR3/4暗褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり、10YR5/8黄褐色粘性ブロック少量混入)、SB7埋土
- 3 10YR3/4暗褐色シルト(しまりあり、粘性あり、10YR5/8黄褐色粘性ブロック混入)、SB7埋土
- 4 10YR2/2黒褐色シルト(しまりややあり、粘性あり)、SB7埋土
- 5 10YR4/6褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、SB7埋土
- 6 10YR2/2黒褐色シルト(しまりややあり、粘性あり、炭化物混入)、SB7埋土
- 7 10YR3/4暗褐色シルト(しまりややあり、粘性あり、炭化物混入)、SK557埋土
- 8 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 9 10YR5/6黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、地山

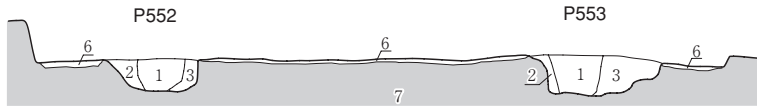


- 石囲炉(SF554)
- 1 10YR4/4褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり、10YR7/4粘土ブロック混入)、石囲炉埋土
 - 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり、炭化物混入)、石囲炉埋土
 - 3 10R4/4赤褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、焼土
 - 4 10R4/8赤色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、焼土
 - 5 10YR5/6黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、地山



第7図 7号住居跡 ①

511.5m B



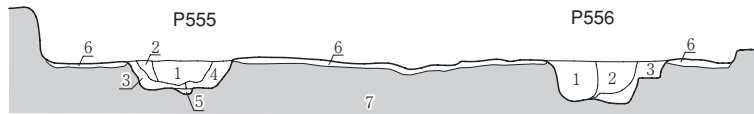
P552

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、P552埋土
- 2 10YR3/4暗褐色シルト(しまりあり、粘性あり)、P552埋土
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、10YR5/8黄褐色シルト 粘土ブロック混入、P552埋土
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 7 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

P553

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P553埋土
- 2 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P553埋土
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P553埋土
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 7 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

511.5m C



P555

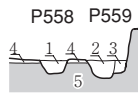
- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P555埋土
- 2 10YR3/4暗褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P555埋土
- 3 10YR4/4褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり、10YR8/4浅黄橙粘土ブロック混入)、P555埋土
- 4 10YR4/4褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、10YR8/4浅黄橙粘土ブロック混入、P555埋土
- 5 10YR2/3黒褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、P555埋土
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 7 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

P556

- 1 10YR3/4暗褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、P556埋土
- 2 2.5Y3/2黒褐色シルト(しまりややあり、粘性あり)、10YR5/8黄褐色粘土ブロック混入、P556埋土
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト(しまりややあり、粘性あり)、P556埋土
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 7 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

511.5m E

E'

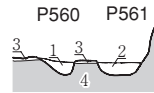


P558,P559

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P558埋土
- 2 10YR4/4褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、P559埋土
- 3 10YR3/3暗褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、SD582埋土
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 5 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

511.5m G

G'

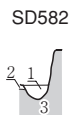


P560,P561

- 1 10YR3/3暗褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P560埋土
- 2 7.5YR3/4暗褐色シルト(しまりあり、粘性ややあり)、P561埋土
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 4 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

511.5m H

H'



SD582

- 1 10YR3/3暗褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、SD582埋土
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 3 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

511.5m I

I'

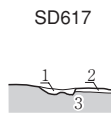


SD588

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(しまりあり、粘性あり)、SD588埋土
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 3 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

511.5m J

J'

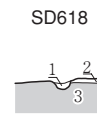


SD617

- 1 10YR3/4暗褐色シルト(しまりあり、粘性あり)、SD617埋土
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 3 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山

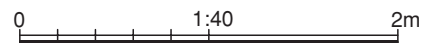
511.5m K

K'



SD618

- 1 10YR3/3暗褐色シルト(しまりあり、粘性あり)、SD618埋土
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(しまりかなりあり、粘性あり)、SB7貼床
- 3 10YR5/6黄褐色シルト(しまりややあり、粘性ややあり)、地山



第8図 7号住居跡 ②

石器は、石鏃2点(28, 29)、スクレイパー1点(30)、磨製石斧5点(31～35)、石皿1点(36)、磨石2点(37, 38)、剥片30点出土した。石鏃の石材は、黒曜石(28)と下呂石(29)であり、28は炉内から出土した。磨製石斧の石材は、4点(31～33, 35)が蛇紋岩で、1点(34)は濃飛流紋岩である。5点とも形状は短冊形である。全ての磨製石斧は、刃部・基部に欠損部分があり、32は基部に欠損後磨り直した面が確認できる。また、33は剥がれている部分に磨り直した痕跡を確認できる。

(2) 8号住居跡(SB8)(第9・12図、第5表)

南区角の1Lグリッドに位置し、地山上面で石囲炉を検出した。住居の平面プランは、削平を受けているため確認できなかつた。しかし、炉の南西1mと北西1.8mの調査区壁の断面で、竪穴住居跡の立ち上がりラインを確認した。この2点の立ち上がりラインを繋ぐと7号住居跡との切り合いの可能性が考えられる。炉の西側に柱穴を確認したが、炉から0.25mと近く8号住居跡に伴うものとは考えられない。石囲炉はコの字状の石囲炉であるが、東側の炉石を他の炉石より0.2m離れた状態で検出した。東側・西側の炉石に、被熱痕を確認した。コの字状石囲炉は、飛騨地方で弥生時代末～古墳時代中期の竪穴住居跡に多く認められ²⁾、8号住居跡の時期は、弥生時代末～古墳時代中期と考えられる。

8号住居跡付近遺物包含層出土遺物(第13図)

8号住居跡の平面プランが確定しておらず埋土も確認できなかつたが、8号住居跡付近から縄文土器4点、弥生土器1点が出土した。縄文土器は、3群3類(39)、6群1類(40, 41)、6群5類(42)を確認した。39は柱穴(P594)から出土しており、胴部に矢羽根状沈線文がある。40は胴部に縄文が施されている。41, 42は石囲炉内から出土しており、41は胴部に斜位の条線が施される。42は底部に網代の圧痕がある。弥生土器(43)は、胎土が粗く、体部に貝殻条痕文があり水神平式土器と考えられる。

第5表 7号住居跡・8号住居跡計測表

遺構名	グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形	幅(m)	奥行(m)	深さ(m)	周溝	炉	柱穴	時代
7号住居跡	1K	510.9	N-28°-E	隅丸方形	3.8	3.2	0.2	有	石囲炉	8	縄文中期
8号住居跡	1L	510.8	-	-	-	-	-	無	コの字状石囲炉	-	弥生末～古墳中期

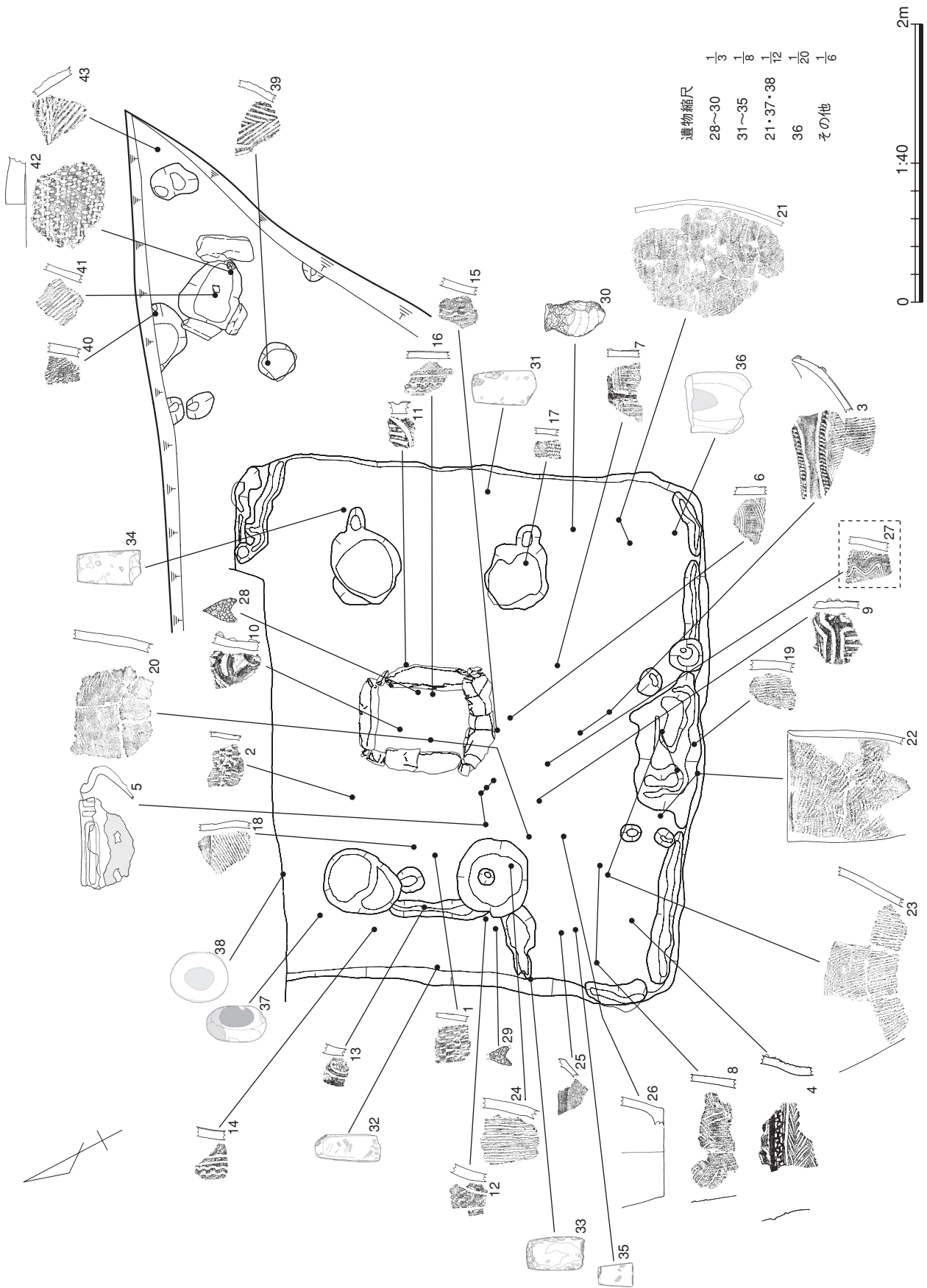
(3) 2号方形周溝墓(第14・15図、第6表)

北区の4H、4I、5H、5Iグリッドに位置し、地山上面で検出した。平成14年度の調査で、周溝を検出し、弥生時代後期の方形周溝墓であることを確認している。今回の調査で前回未確認だった周溝を検出し、全体のプランを確認した³⁾。平面プランは方形であり、周溝は四隅が切れている。南側の周溝は、良好に残存し深さ0.6～0.7mを測るが、北側の周溝は、削平されており0.12mと浅くなる。周溝の内側に小規模な土坑(SK600, SK611～615)を確認したが、方形周溝墓に伴うものか不明である。盛土や埋葬主体は、確認できなかつた。西側周溝は、土坑(SK517)を切っており、北側周溝は、土坑(SK598)を切っている。

出土遺物(第16図)

周溝から弥生土器、縄文土器が出土した。

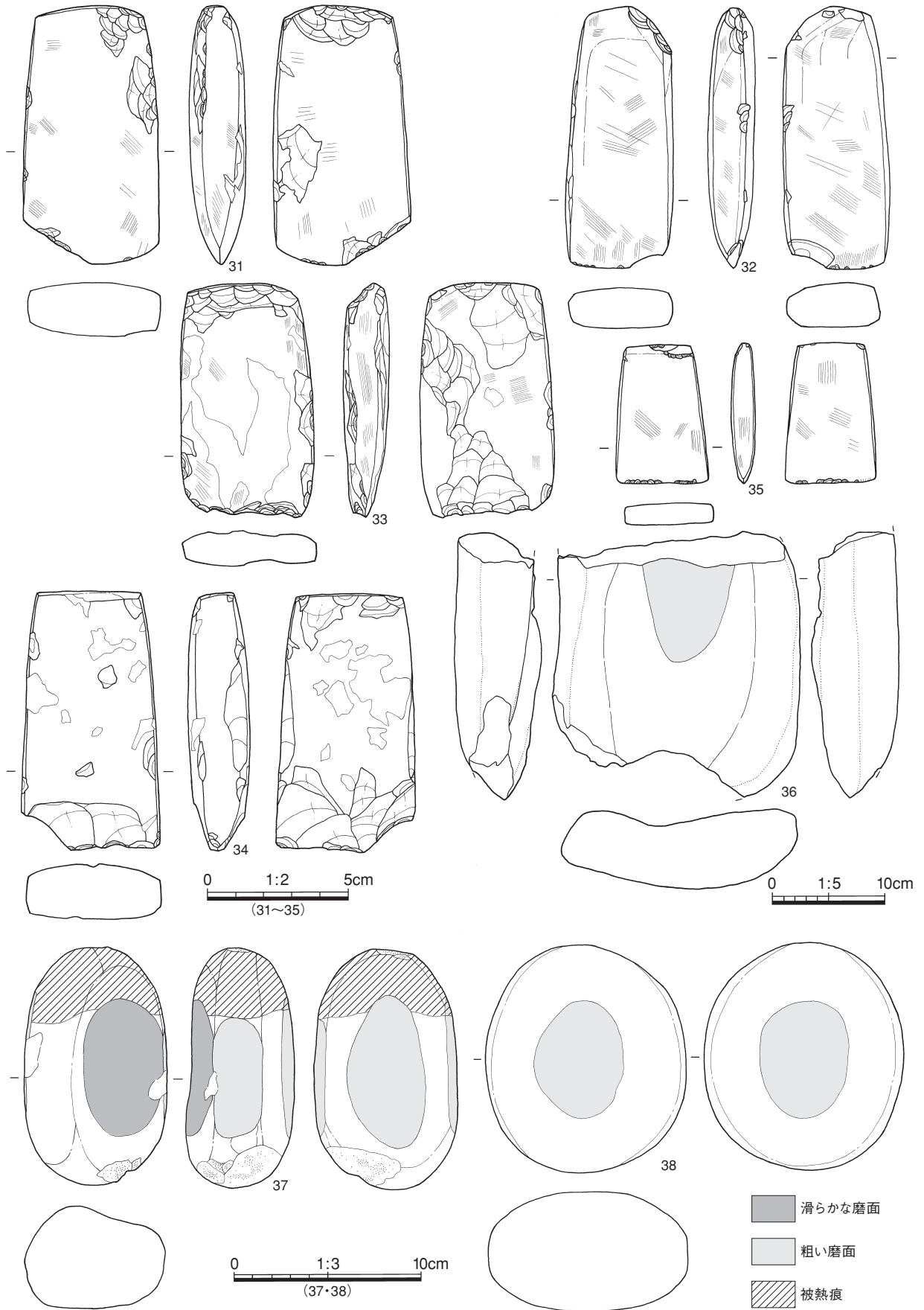
弥生土器は、10点出土した。44, 45は器台の杯部である。胎土はきめ細かく、厚手な作りをしており、



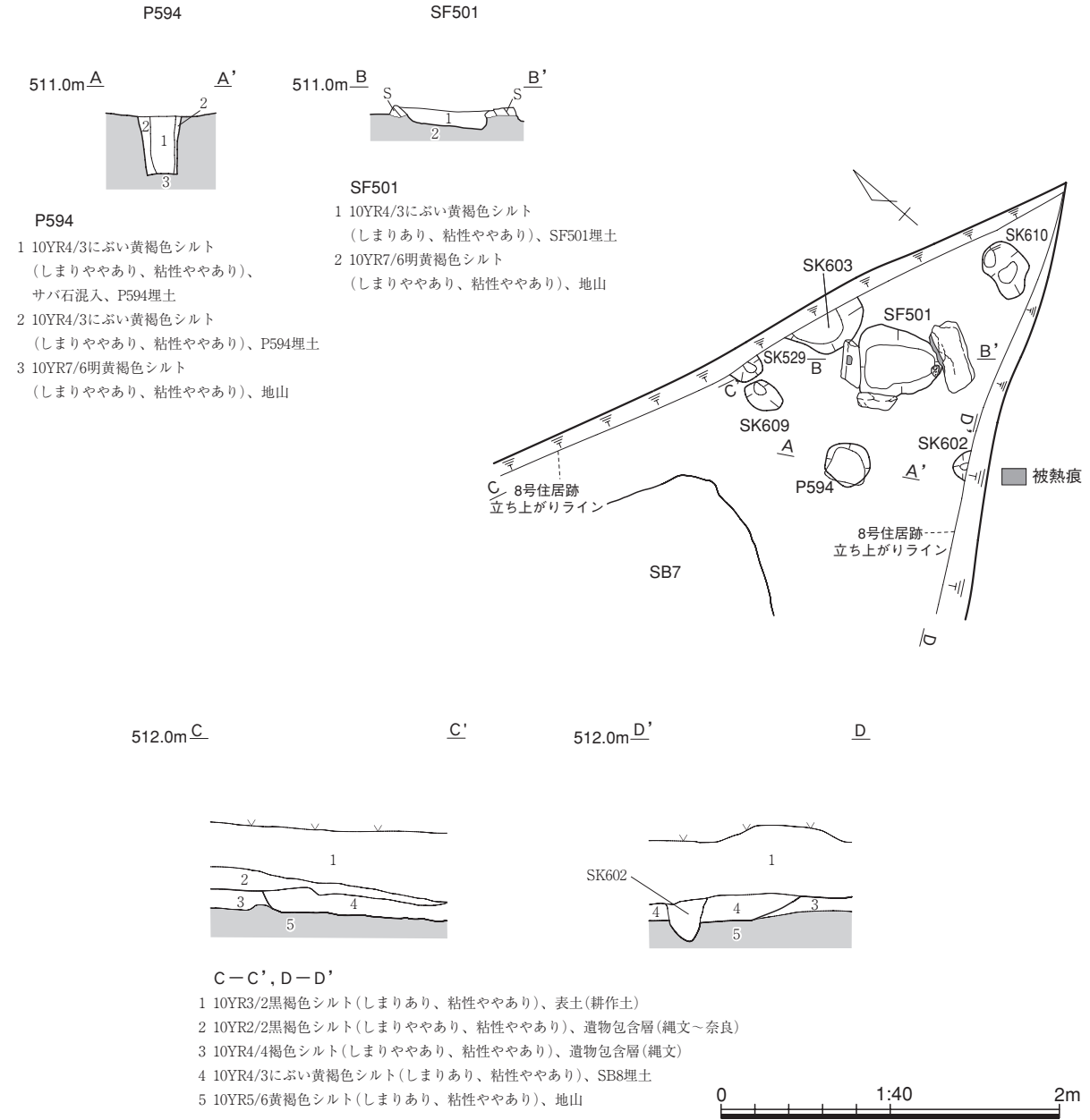
第9図 7号住居跡遺物出土状況・8号住居跡付近遺物包含層遺物出土状況



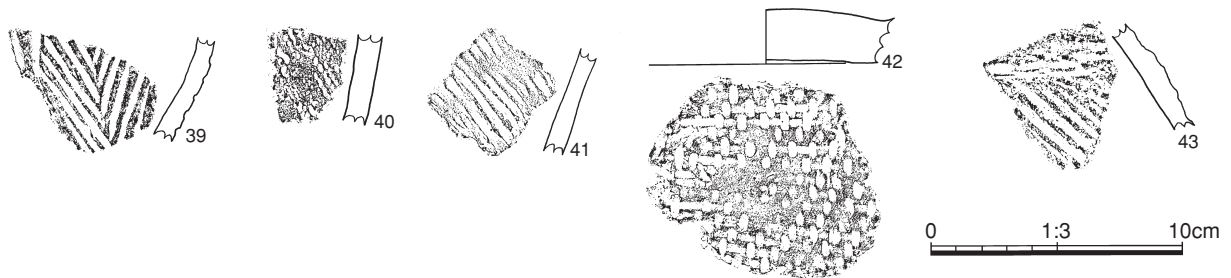
第10図 7号住居跡出土遺物 ①



第11図 7号住居跡出土遺物 ②



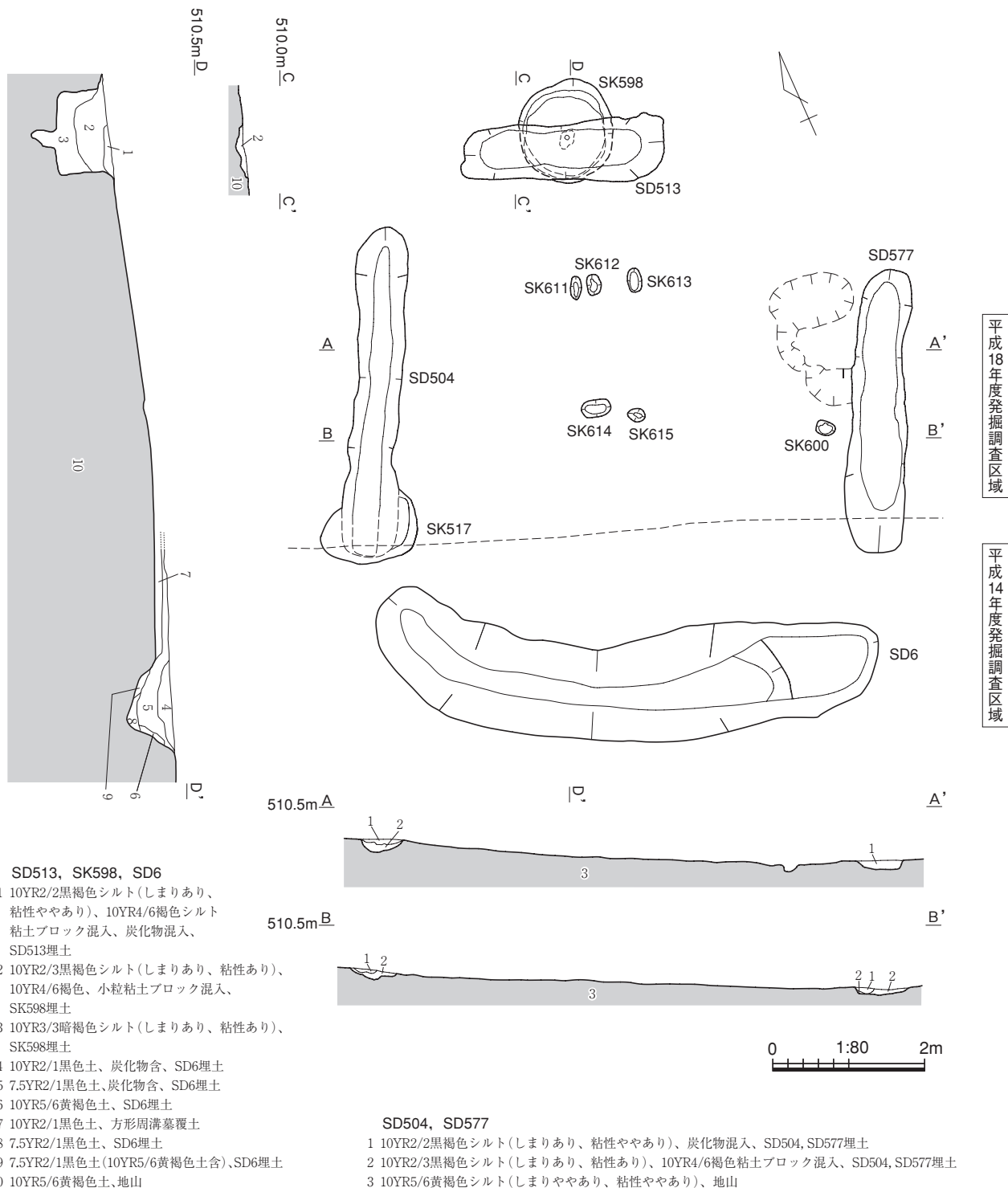
第12図 8号住居跡



第13図 8号住居跡付近遺物包含層出土遺物

第6表 2号方形周溝墓計測表

遺構名	グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形(四隅)	幅(m)	溝幅(m)	溝深(m)	時代
2号方形周溝墓	4 H 5 H 4 I 5 I	509.8	N-26°-E	方形 (切れる)	7.8×8.0	SD6 : 1.3 SD504 : 0.6 SD577 : 0.7 SD513 : 0.9	SD6 : 0.6 SD504 : 0.2 SD577 : 0.2 SD513 : 0.1	弥生 後期



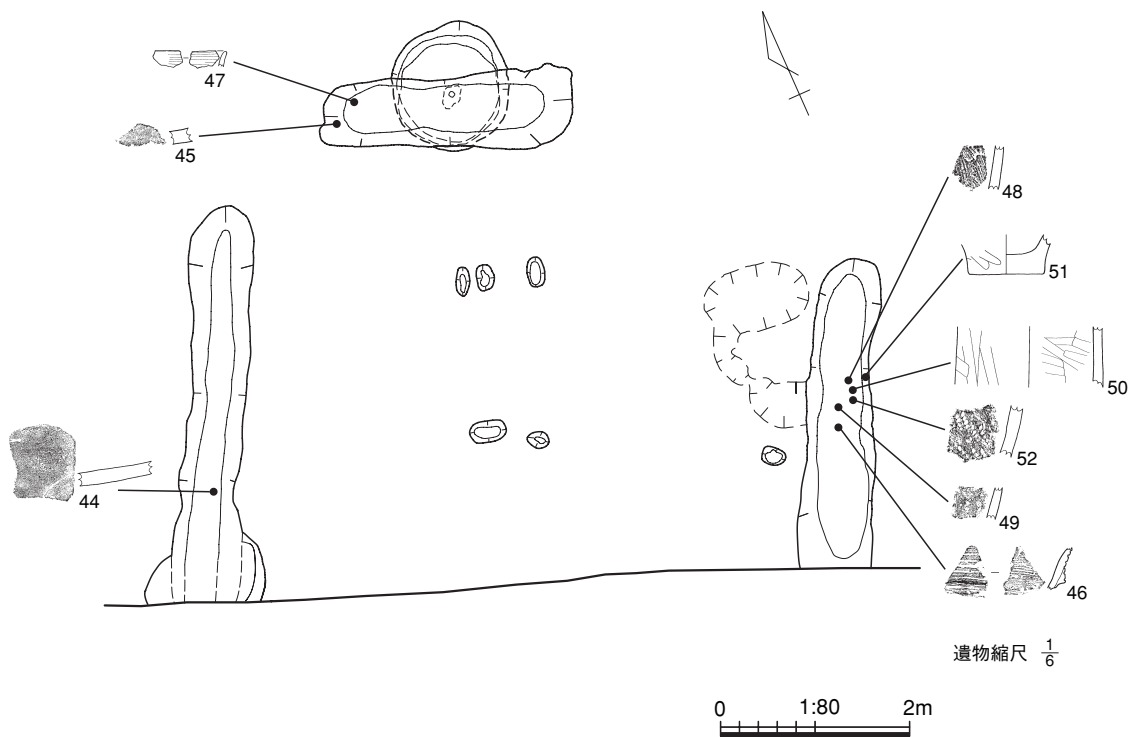
第14図 2号方形周溝墓

内面横方向にナデが施される。胎土や作り、調整方法から同一個体だといえる。50は器台の脚部である。内外面斜め方向にハケ目が施されている。46は北陸系の有段口縁甕だと思われる。口縁から段を有する頸部にかけて、擬凹線が施される。段部は、貼り付けにより作り出されている。内面には横方向の板ナデが施される。47は甕の口縁部で内外面に板ナデが施される。48, 49は甕の胴部で内外面に板ナデが施される。51は飛騨独自の弥生土器型式である横羽状文甕の底部である⁴⁾。外面には、斜め方向に板ナデ、底部内面に指ナデが施される。

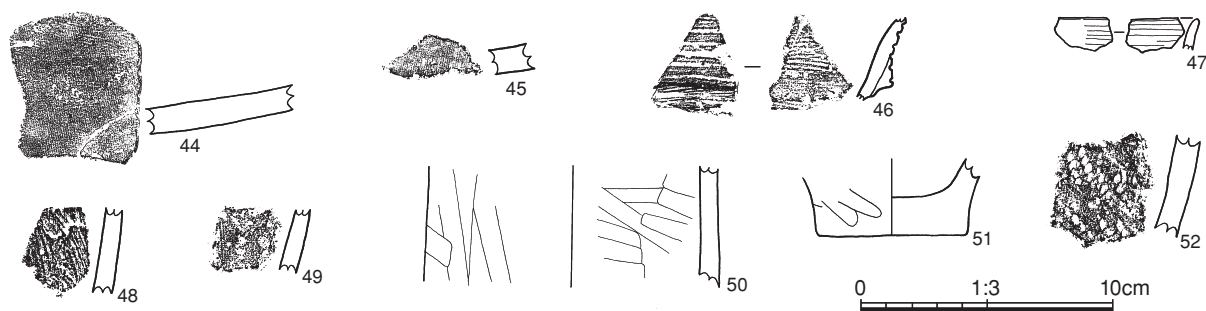
縄文土器は、6群1類2点、6群2類5点、6群3類5点、計12点出土した。縄文が施される52のみ図示した。いずれも周溝埋土への混入と考えられる。

(4) 土坑 (SK598) (第17図)

北区5Iグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.6mを測る。周溝に切られており、その切り合い関係から弥生時代後期以前の遺構だといえる。底部中央には、杭の痕



第15図 2号方形周溝墓遺物出土状況



第16図 2号方形周溝墓出土遺物

跡と思われる小穴1基を確認した。小穴の平面形は楕円形を呈し、長軸0.26m、短軸0.15m、深さ0.28mを測る。底部の形状から、動物などを狩猟した陥し穴の可能性が高い。遺物の出土はなかった。

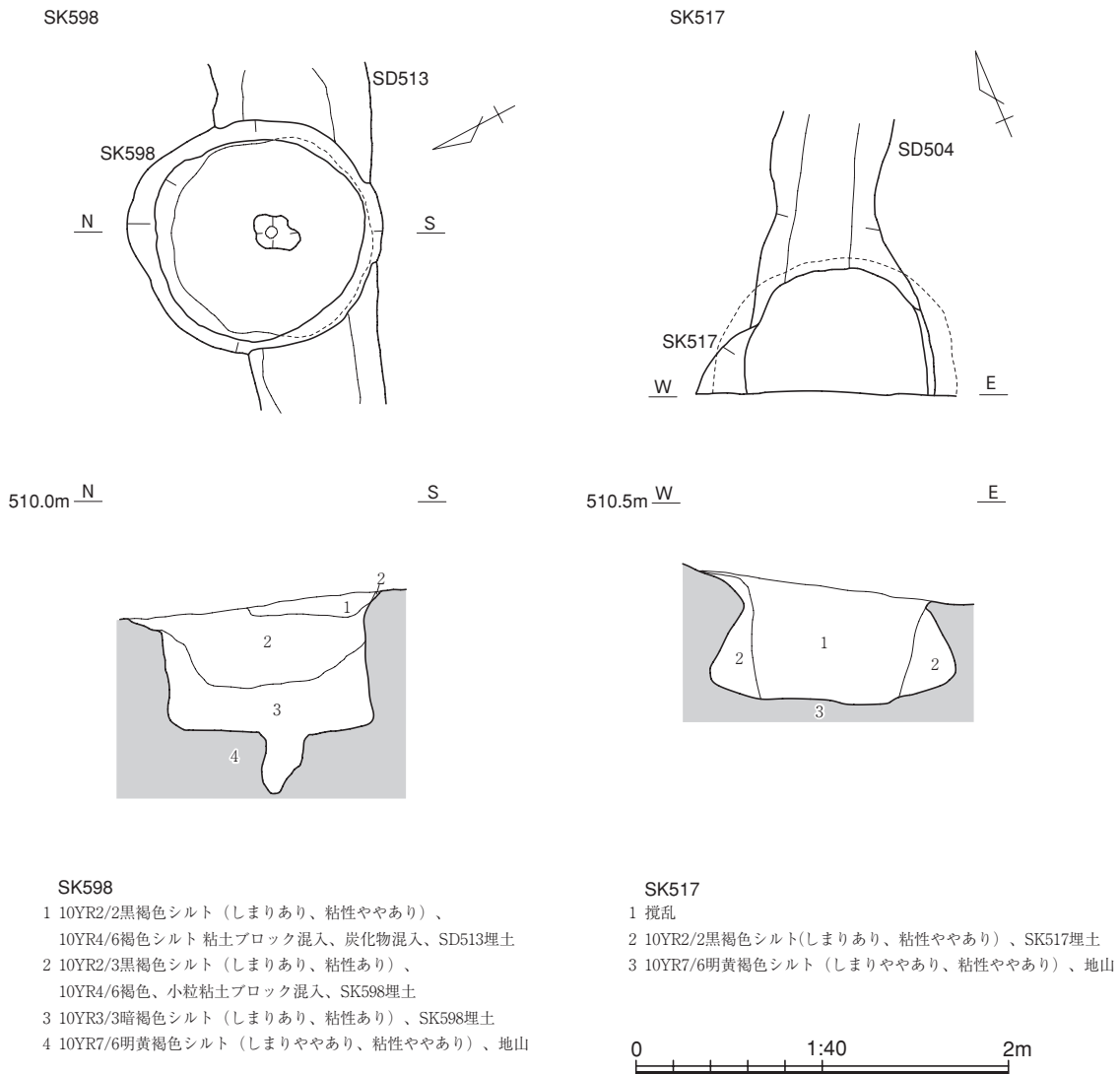
(5) 土坑 (SK517) (第17図)

北区の南端4Hグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、長軸1.3m、深さ0.6mを測る。

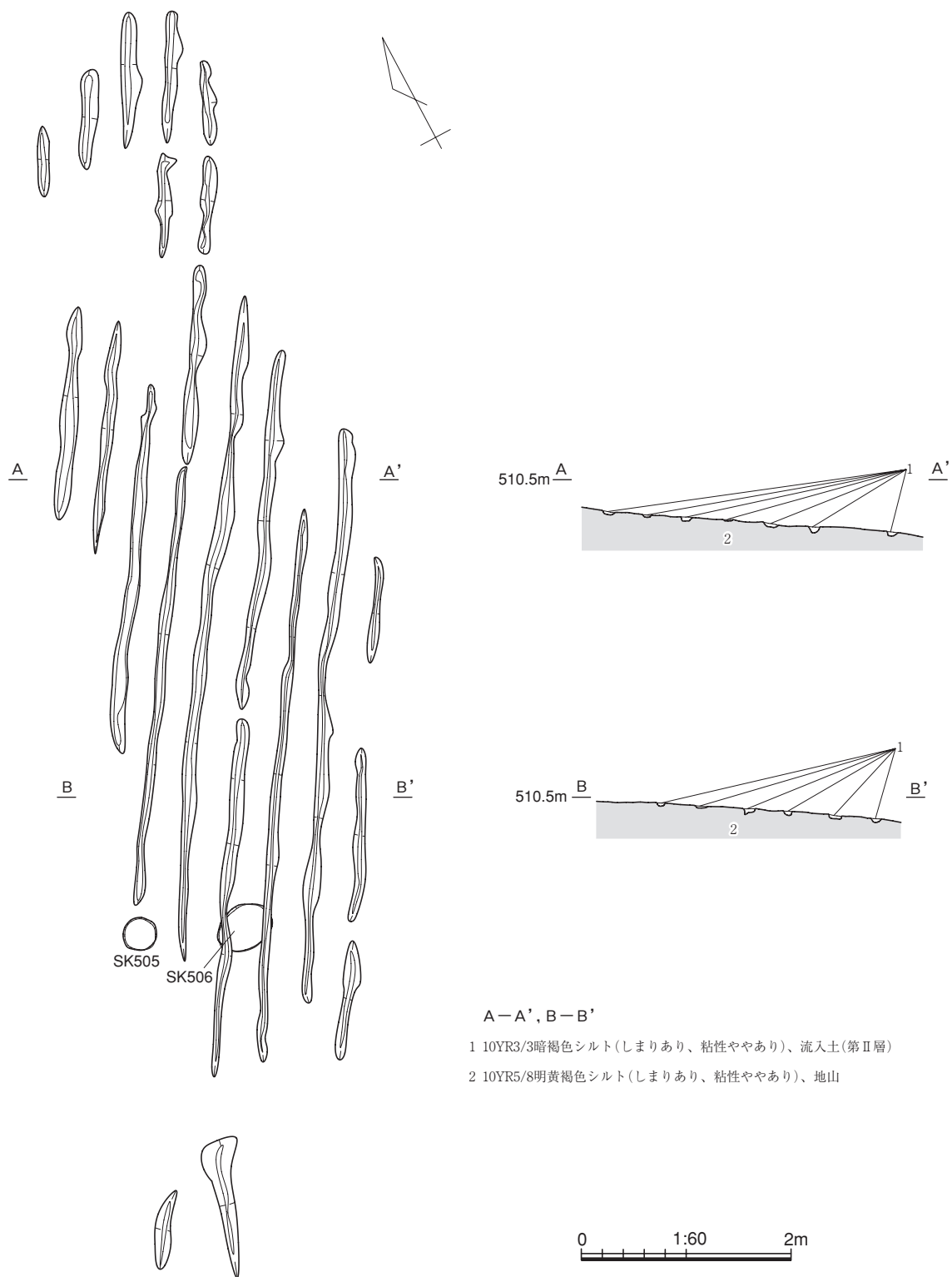
SK517付近は、平成14年度調査区と接しており、遺構内には、その当時の埋め戻し土が流入していた。今回の発掘調査では、断面形がフラスコ状であると確認し、オーバーハングした部分に遺構埋土を確認した。形状から、堅果類などを保存した貯蔵穴の可能性が高い。周溝との切り合いは、平面・断面からは判断できないが、遺構埋土から出土した遺物を縄文時代のものと確認し、周溝が土坑 (SK517) を切っていると判断した。

出土遺物 (第19図)

6群1類の縄文土器1点(53)が出土した。フラスコ状にオーバーハングした土坑埋土内から出土した。胴部に縄文が施されている。



第17図 土坑(SK598, SK517)



第18図 畝状遺構(ST616)

(6) 畝状遺構 (ST616) (第18図)

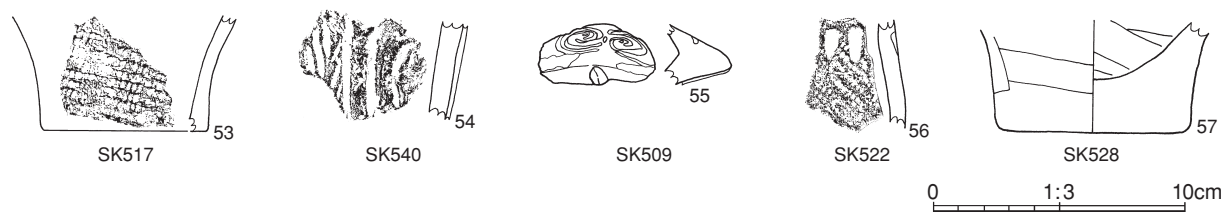
北区5H・6Hグリッドに、畝状の凸凹を確認した。範囲は、東西3.2m×南北12mにわたり、地山上面で検出した。畝の方向は、N-29°-Eである。山状の凸部は、削平を受けていると考えられるが、0.02～0.04mの深さで谷状の凹部が確認できる。谷状の凹部には、暗褐色シルト(第Ⅱ層)が流入している。性格は不明であるが、畑の可能性が考えられる。遺物の出土はなかった。

(7) 土坑出土遺物(第19図)

SK540から縄文土器(54)、SK509から縄文土器(55)、SK522から縄文土器(56)、SK528から弥生土器(57)が出土した。

縄文土器については、3群3類1点(54)、4群1点(55)、6群1類1点(56)が出土した。54は縦位の矢羽根状沈線文と縦位の沈線文が施される。55はL字状の口縁部に、渦巻き状の沈線文が施されている。56は頸部に縄文を施文後、棒状工具による刺突が施される。

弥生土器(57)は、内外面に斜め方向の板ナデが施され、横羽状文甕の底部の可能性はある。



第19図 土坑出土遺物

注

- 1) 6号住居跡(平成14年度調査)から出土した162・163は、縦方向の櫛描波状文が施されている。27も同様の縦方向の櫛描波状文が施されている。
- 2) 野内遺跡A地区では、コの字状石囲炉が10基確認されている。報告書では飛騨地方のコの字状石囲炉の集成が行われており、24基のコの字状石囲炉が報告されている。また、これらのコの字状石囲炉を伴う竪穴住居跡の年代は、弥生時代末～古墳時代中期の範囲内に位置付けられると報告されている。

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007『野内遺跡A地区』。

- 3) 第14図は、平成14年度調査の遺構図と平成18年度調査の遺構図を合成した図である。
- 4) 51は、下呂市下鳥遺跡と高山市ウバガ平遺跡(試掘確認調査)出土の横羽状文甕底部と器形及び調整方法が同じである。また、51が出土した2号方形周溝墓から、平成14年度調査の際に横羽状文甕の胴部破片が出土している。以上の理由から、51を横羽状文甕と判断した。下鳥遺跡、ウバガ平遺跡出土の横羽状文甕については以下の文献を参照した。

下呂町教育委員会 1985『下鳥遺跡発掘調査報告書』。

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2004『特集飛騨の弥生文化』『きずな41号』。

第4節 遺物包含層出土遺物(第20図)

遺物包含層第Ⅱ層から縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、近世陶磁器、石器が、第Ⅲ・Ⅳ層から縄文土器、石器が出土した。第Ⅱ層出土遺物は、須恵器1点(82)のみ図示した。82は摘み蓋で、外面に回転ヘラ削り、内面には回転ナデが施される。

縄文土器は、1群1類11点、1群2類11点、3群3類148点、4群1点、4・5群1点、6群1類57点、6群2類19点、6群3類99点出土した。

1群1類 58, 59, 60は早期の押型文土器である。58, 60は口縁部に、59は胴部に山形文が施される。3点とも南区で出土した。

1群2類 61, 62は尖底土器で、縄文が施文されている。2点とも南区で出土した。

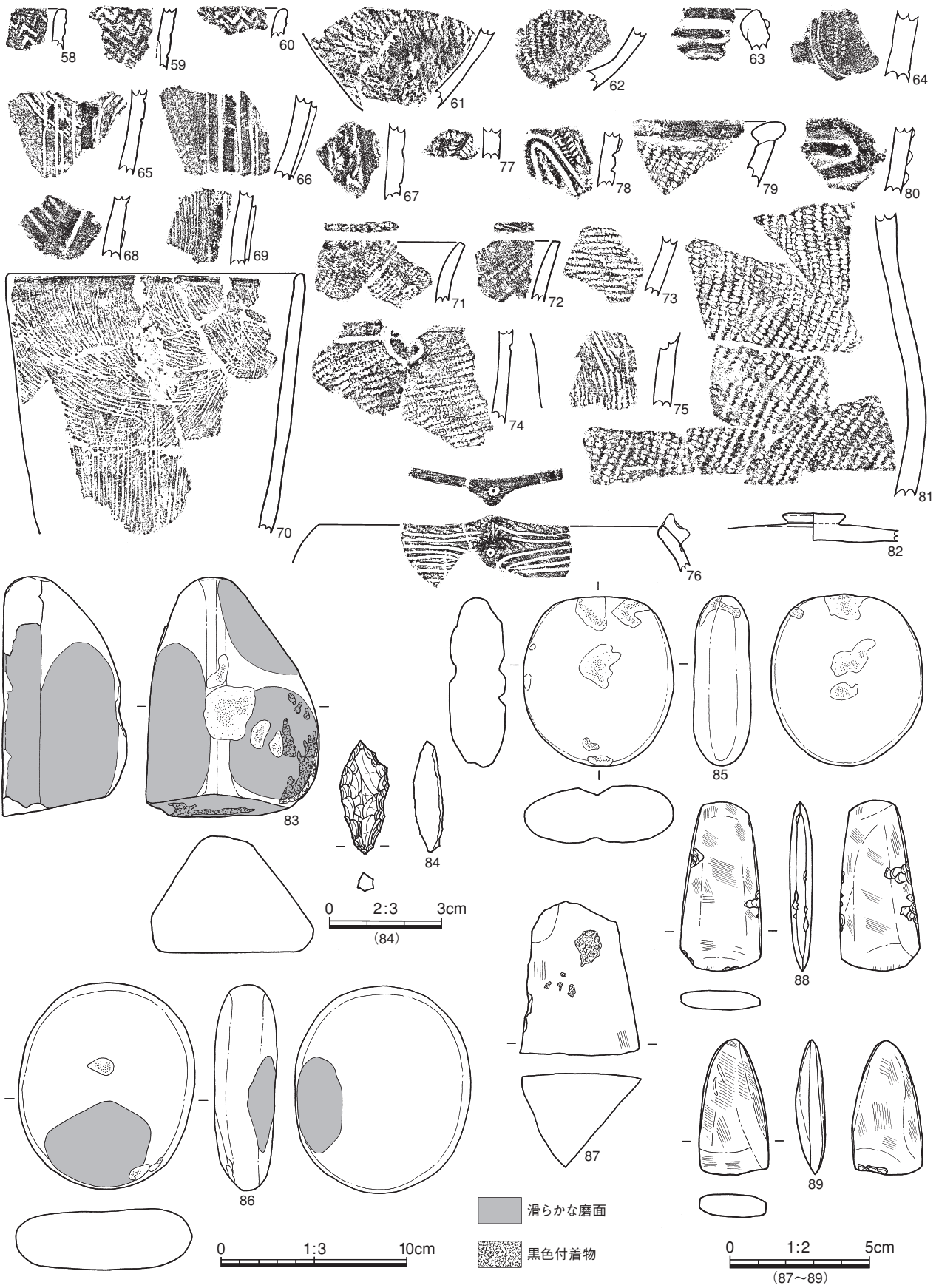
3群3類 63は口縁部に横位の沈線と隆帯が施される。64～66は胴部に縄文を地文とした上に、半截竹管による沈線文を施す。67は胴部に縦位の半截竹管による蛇行沈線文を施し、68は胴部に斜位の平行沈線文を施す。69は縦位に隆帯と条線が施されている。77は先が鋭角な工具による刺突が施されている。78は胴部に有刻隆帯と半截竹管による沈線文が施される。79は口縁部が肥厚し、端部が丸く整形され、下部には縄文が施されている。80は横位に隆帯による区画が確認できる。

4群 76は口縁部である。横位に沈線を施し、突起部上下に竹管状工具による刺突が施される。

6群1類 70は、口縁部は弧状、胴部下は縦位と変化をつけて条線が施される。71～75, 81は胴部に縄文が施文される。71は口唇部に縄文、72は口唇部に刻みが施されている。

石器は、北区第Ⅲ層から、磨製石斧(88, 89)が出土した。石材はどちらも蛇紋岩である。88は長さ61mmの短冊形、89は長さ48.5mmのバチ形である。89は側辺部に幾方にも磨った面があり、刃部は鋭角に作り出されている。

南区第Ⅳ層から、石錐(84)、凹石(85)、磨石(83, 86)、砥石(87)が出土した。石錐(84)の石材は、チャートである。凹石(85)はたわし状の形をしており、表裏両面に凹みが確認できる。磨石(83)は4か所、磨石(86)は3か所に磨面がみられる。砥石(87)の形状は三角柱で、一面にだけ磨面がみられ、表面には黒色付着物がある。石材は、83, 87は砂岩、85は安山岩、86は花崗岩である。



第20図 遺物包含層出土遺物(第Ⅱ層82、第Ⅲ層77~81・88・89、第Ⅳ層58~76・83~87)

第4章 まとめ

(1) 竪穴住居跡

今回確認した竪穴住居跡は2軒である。縄文時代中期の竪穴住居跡1軒と弥生時代末～古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡1軒を確認した。どちらも南区から検出した。

7号住居跡からは、早期の押型文から後晩期までの縄文土器が幅広く出土したが、その中で主体となるのは中期の土器である。中には、信州系・北陸系・西日本～東海系の土器もあり、他地方との交流も窺われる。また、住居中央には、縄文時代特有の大きな川原石を利用した石囲炉を確認した。石囲炉表面には、被熱痕や磨面を確認した。住居内からは、磨製石斧が5点出土しており、石囲炉を使って磨製石斧を磨いたことが考えられる。

8号住居跡では、平面プランの確認はできなかったが、コの字状石囲炉を検出した。住居に伴う土器は確認できなかったが、コの字状石囲炉は、飛騨地方では弥生時代末～古墳時代中期にみられる形状であり、年代は弥生時代末～古墳時代中期の範囲内と考えられる¹⁾。

(2) 陥し穴状遺構 (SK598)

SK598は、底部に小穴1基を伴っていた。小穴は、杭の痕跡と考えられる。SK598は、東側の集落域から離れ緩斜面に位置していることから、狩猟用の陥し穴である可能性が高い。遺物は見つからなかったが、弥生時代後期の2号方形周溝墓に切られているため、年代は弥生時代後期以前に位置付けられる。県内で陥し穴状遺構が確認された遺跡は、寺平遺跡(揖斐郡揖斐川町)、造道遺跡(加茂郡八百津町)、西ヶ洞古墳群(郡上市)、野内遺跡B地区(高山市)、熊田山北古墳群(各務原市)²⁾である。

第7表 県内の陥し穴状遺構の報告例

遺跡名	基数	時代	備考
寺平遺跡	1	縄文時代	短軸・長軸0.9～1.1mの楕円形の土坑である。壁面に段があり、底面はさらにピット状(直径0.2m)に深くなっていた。
造道遺跡	2	縄文中期	陥し穴状遺構1基の南側に、鍵の手状の周溝を検出。周溝の外側には直径約0.2mの柱穴12基を検出。これらを柵として、陥し穴とともに狩猟用に利用したと考えられる。
西ヶ洞古墳群	9	縄文時代	丘陵の傾斜に、円筒形の土坑が列状に並んでいるのを検出。直径0.7～1.3mの土坑3基は、底部に直径0.1～0.3mの小穴1基を伴っていた。
野内遺跡B地区	21	縄文時代	旧地形の山際を取り巻くように設置された可能性がある。直径1mほどの土坑の底面中央に小穴1基を備えていた。杭が立てられていたと考えられる。
熊田山北古墳群	3	時期不明	熊田山北側裾の緩斜面にて、陥し穴状遺構3基を検出。3基とも短軸・長軸0.8～1.6mほどで、底面に直径0.2～0.3mの小穴1基を伴っていた。

(3) 2号方形周溝墓

平成14年度調査で方形周溝墓の南側を確認し、今回の調査で北側を確認した。盛土や埋葬主体は確認できなかったが、全体の形状が判明した。平面形は方形、周溝は四隅が切れていた³⁾。遺物は、平成14年度の調査で南側周溝から器台・高杯・壺蓋・蓋・甕などの弥生土器13点、縄文土器1点が出土した。今回の調査で、小片ではあるが、北・東・西側の周溝から器台・甕などの弥生土器8点、縄文土器1点が出土した。南側周溝から出土した器台が、北陸地方の土器型式である法仏式に比定されることから、弥生時代後期に位置付けられる。

(4) 中野大洞平遺跡全体の様子⁴⁾

C・D区で、焼礫集積遺構1基、階段状遺構1基を確認した。A区と北区で、方形周溝墓2基、陥

し穴状遺構1基を確認した。A・B区及び南区から、縄文時代～奈良時代の竪穴住居跡を8軒確認した。このうち、縄文時代の竪穴住居跡2軒は、調査区東端に位置しており、住居内からは北陸や信州の影響を受けた土器が出土した。

遺跡の東側に竪穴住居跡が集中しており、集落域はこの区域に限定される。また、集落域の西側では、陥し穴状遺構や方形周溝墓を確認し、この区域を狩猟場としていた時期や墓域としていた時期があったと考えられる。西側のC・D・E区は、集落域からさらに離れることになる。

また、中野大洞平遺跡の100m東には、中野山越遺跡が位置している⁵⁾。中野山越遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡が、中期28軒、後期3軒、晩期1軒報告されている。遺物では、北陸や信州の影響を受けた土器が出土している。年代や地理的關係などから、中野大洞平遺跡と中野山越遺跡のつながりがあったと考えられる。

第8表 中野大洞平遺跡竪穴住居跡一覧表

遺構名	区	グリッド	海拔(m)	主軸方位	平面形	幅(m)	奥行(m)	深さ(m)	周溝	炉・カマド	柱穴	時代
1号住居跡	H14A・B	2J2K3J3K	510.6	N-28°-E	隅丸方形	4.6	3.7	0.3	無	カマド	5	奈良
2号住居跡	H14A	2I2J	511.5	N-26°-E	-	6.8	-	0.1	無	不明	不明	弥生後期
3号住居跡	H14A	4I	510.3	N-45°-E	隅丸方形	3.2	2.8	0.1	無	不明	不明	弥生後期
4号住居跡	H15B	1K2J2K	510.5	N-33°-E	隅丸方形	7.1	7.1	0.2	有	地床炉	4	弥生後期
5号住居跡	H15B	1L2L	510.3	N-35°-E	隅丸方形	4.4	3.0	0.1	無	コの字状石囲炉	4	弥生後期
6号住居跡	H15B	1L2L	510.5	N-42°-E	隅丸方形	4.7	4.5	0.4	有	石囲炉	8	縄文中期
7号住居跡	H18南	1K	510.9	N-28°-E	隅丸方形	3.8	3.2	0.2	有	石囲炉	8	縄文中期
8号住居跡	H18南	1L	510.8	-	-	-	-	-	-	コの字状石囲炉	不明	弥生末～古墳中期

注

1) 前掲第3章第3節注2) P23参照

2) 寺平遺跡、造道遺跡、西ヶ洞古墳群、野内遺跡B地区は、次の文献にて報告されている。

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2003『寺平遺跡』。

八百津町教育委員会1991『和知城址造道遺跡(縄文)』(公園造成工事に伴う事前の発掘調査報告書)。

財団法人岐阜県文化財保護センター 1995『西ヶ洞遺跡・西ヶ洞古墳群』。

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005『岐阜県新発見考古速報2005』(平成17年度岐阜県発掘調査報告会)。

なお、熊田山北古墳群については、西村勝広氏(各務原市埋蔵文化財調査センター)の御教示による。

3) 赤塚氏によると、東海地域の弥生時代前半期の方形周溝墓は、ほとんどが四隅陸橋型である。弥生中期末葉以降になると全周型やコの字型・L字型など多様な形態が出現する。飛騨地方では、高山市ツルネ遺跡(弥生時代後期)や飛騨市上町遺跡D地点(古墳時代前期)で方形周溝墓が報告されている。ツルネ遺跡の周溝は、三隅が切れる状態で、上町遺跡D地点の周溝は、中央陸橋型である。出典は、次のとおりである。

赤塚次郎2005『東海地域の方形周溝墓』『方形周溝墓研究の今』、雄山閣。

高山市教育委員会1978『ツルネ遺跡発掘調査報告書』。

古川町教育委員会1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』。

4) 前掲第1章第1図「中野大洞平遺跡発掘調査区・グリッド設定図」P2参照。

5) 前掲第2章第2図「中野大洞平遺跡周辺の遺跡」P4参照。出典は、次のとおりである。

古川町教育委員会1993『中野山越遺跡発掘調査報告書』。

第9表 遺構一覧表 ①

遺構名	グ リ ット	上 端(m)		下 端(m)		深 さ (m)	埋 土
		長 径	短 径	長 径	短 径		
SB7	1K	3.80	3.20	3.60	3.00	0.21	本文参照
SB8	1L	0.46	0.37	0.42	0.30	0.09	本文参照
SF501	1L	0.46	0.37	0.42	0.30	0.09	本文参照
SK503	1K	2.25	0.89	1.65	0.60	0.09	1.黒褐色土(10YR2/2)
SD504	5H	3.40	0.58	3.20	0.25	0.20	本文参照
SK505	5H	0.30	0.28	0.28	0.26	0.06	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK506	5H	0.52	0.40	0.50	0.38	0.17	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK508	6I	0.90	0.60	0.88	0.58	0.48	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK509	5H	0.50	0.36	0.15	0.10	0.18	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK510	5H	0.24	0.21	0.22	0.15	0.12	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK511	5H	0.72	0.69	0.62	0.58	0.14	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK512	6H	0.67	0.60	0.38	0.13	0.28	1.黒褐色土(10YR2/3)
SD513	5I	2.62	0.64	2.11	0.47	0.12	本文参照
SK514	5H	0.86	0.69	0.84	0.67	0.24	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK515	5I	0.25	0.21	0.14	0.12	0.08	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK517	4H	1.18	0.78	0.75	0.70	0.53	本文参照
SK518	5H	0.63	0.46	0.50	0.20	0.19	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK521	1K	0.38	0.17	0.28	0.05	0.14	1.黒褐色土(10YR2/2) 黄橙色(10YR8/6) 含
SK522	1K	0.31	0.28	0.14	0.10	0.20	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK523	1K	0.50	0.39	0.32	0.13	0.17	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK525	1J	0.33	0.30	0.15	0.09	0.20	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK526	1J	1.16	1.14	1.03	1.00	0.13	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK527	1J	1.60	1.47	1.30	1.28	0.60	1.暗褐色土(7.5YR3/3) 暗褐色(7.5YR3/3) 砂層沈殿物含 2.黒褐色土(7.5YR3/3) 暗褐色土(7.5YR3/3) 砂層沈殿物含 3.極暗褐色土(7.5YR2/3) 暗褐色(7.5YR3/3) 砂層沈殿物含 4.暗褐色土(7.5YR3/4) 5.褐色粘土(7.5YR4/3) 6.黒色土(7.5YR2/1) 7.暗褐色土(7.5YR3/4) 8.暗褐色土(7.5YR3/4) 9.明黄褐色(7.10YR7/6) 3cm~5cmの礫含 10.明黄褐色土(10YR7/6)
SK528	1K	0.80	0.52	1.00	0.38	0.24	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK529	1L	0.20	0.11	0.06	0.04	0.08	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK533	1K	0.30	0.26	0.10	0.10	0.36	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK534	1K	0.38	0.27	0.11	0.05	0.11	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK535	1K	0.24	0.20	0.17	0.09	0.17	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK536	1K	0.41	0.29	0.30	0.15	0.12	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK537	1K	0.74	0.53	0.56	0.35	0.30	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK538	1K	0.17	0.15	0.12	0.04	0.22	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK539	1K	0.29	0.23	0.10	0.10	0.34	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK540	1K	0.27	0.25	0.18	0.12	0.43	1.黒褐色土(10YR2/3) におい黄橙色粘土ブロック(10YR4/6) 含
SK541	1K	0.67	0.66	0.33	0.15	0.25	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK542	1K	0.33	0.29	0.03	0.03	0.28	1.黒褐色土(10YR2/2) 炭化物含
SK543	1K	0.83	0.62	0.76	0.50	0.14	1.黒褐色土(10YR3/3) 炭化物含
SK544	1K	0.27	0.27	0.15	0.15	0.25	1.黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土粘土ブロック(10YR4/6) 含
SK545	1K	0.23	0.20	0.18	0.16	0.07	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK546	1K	0.43	0.42	0.33	0.29	0.15	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK547	1K	0.39	0.30	0.20	0.07	0.34	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK548	1K	0.80	0.54	0.58	0.24	0.28	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK549	1K	0.16	0.15	0.10	0.09	0.10	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK550	1K	0.24	0.23	0.21	0.18	0.10	1.黒褐色土(10YR2/3)
P552	1K	0.54	0.44	0.50	0.30	0.07	本文参照
P553	1K	0.51	0.48	0.47	0.44	0.22	本文参照
SF554	1K	1.00	0.70	1.00	0.70	0.16	本文参照
P555	1K	0.50	0.50	0.40	0.40	0.18	本文参照
P556	1K	0.45	0.44	0.40	0.40	0.22	本文参照
SK557	1K	0.90	0.45	0.76	0.30	0.15	1.暗褐色土(10YR3/4) 炭化物含
P558	1K	0.15	0.12	0.08	0.05	0.13	本文参照
P559	1K	0.15	0.12	0.09	0.03	0.10	本文参照
P560	1K	0.19	0.16	0.09	0.04	0.09	本文参照
P561	1K	0.24	0.24	0.16	0.06	0.13	本文参照
SK562	1J	0.31	0.24	0.19	0.15	0.08	1.黒色土(10YR2/1)
SK563	1J	0.26	0.21	0.16	0.13	0.13	1.黒色土(10YR2/1)
SK564	1J	0.28	0.24	0.18	0.16	0.17	1.黒褐色土(10YR2/3) 明黄褐色粘土ブロック(10YR6/8) 含
SK565	1J	0.23	0.19	0.18	0.12	0.06	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK566	1J	0.20	0.18	0.10	0.10	0.08	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK567	1J	0.28	0.20	0.15	0.10	0.09	1.黒褐色土(10YR2/3)

第10表 遺構一覧表 ②

遺構名	グリッド	上 端(m)		下 端(m)		深さ (m)	埋 土
		長 径	短 径	長 径	短 径		
SK568	1J	0.22	0.15	0.11	0.06	0.12	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK569	1J	0.30	0.30	0.20	0.05	0.20	1.にぶい黄褐色土(10YR4/3)褐色粘土ブロック(10YR4/6)含
SK570	1J	0.45	0.45	0.40	0.27	0.14	1.暗褐色土(10YR3/4)
SK571	1J	0.21	0.20	0.13	0.12	0.18	1.黒色土(10YR2/1)
SK572	1J	0.27	0.27	0.18	0.18	0.13	1.暗褐色土(10YR3/3)炭化物含
SK573	1J	0.33	0.28	0.24	0.13	0.09	1.黒褐色土(10YR2/3)炭化物含
SK574	99J	0.28	0.27	0.16	0.15	0.16	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK575	1I	0.20	0.20	0.12	0.09	0.13	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK576	99I	0.39	0.30	0.12	0.10	0.27	1.黒褐色土(10YR2/2)
SD577	4I	3.17	0.69	3.02	0.45	0.12	本文参照
SK579	1J	0.32	0.23	0.17	0.15	0.14	1.暗褐色土(10YR3/3)
SD582	1K	1.10	0.13	0.97	0.08	0.08	本文参照
SD583	1K	0.44	0.20	0.38	0.04	0.11	本文参照
SK584	1K	0.25	0.17	0.13	0.04	0.17	1.暗褐色土(10YR3/4)
SK585	1K	0.26	0.22	0.20	0.15	0.22	1.暗褐色土(10YR3/4)
SK586	1K	0.56	0.25	0.25	0.10	0.21	1.暗褐色土(10YR3/4)
SK587	1K	0.20	0.15	0.11	0.09	0.18	1.暗褐色土(10YR3/4)
SD588	1K	0.56	0.12	0.53	0.03	0.03	本文参照
SD589	1K	0.48	0.08	0.37	0.05	0.02	本文参照
SK590	1K	0.18	0.17	0.12	0.07	0.17	1.黒褐色土(10YR2/2)炭化物・黄褐色粘土ブロック(10YR5/8)含
SK591	1K	0.39	0.28	0.30	0.16	0.17	1.黒褐色土(10YR2/3)炭化物含
SK592	1K	0.19	0.18	0.14	0.05	0.19	1.にぶい黄褐色土(10YR4/3)
SK593	1K	0.23	0.21	0.12	0.09	0.16	1.にぶい黄褐色土(10YR4/3)炭化物・褐色粘土ブロック(10YR4/3)含
P594	1L	0.26	0.26	0.20	0.20	0.39	本文参照
SK596	99I	0.25	0.17	0.21	0.13	0.10	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK597	1J	0.56	0.36	0.13	0.12	0.29	1.黒褐色土(10YR3/2)
SK598	5I	1.30	1.00	1.02	1.00	0.65	本文参照
SK600	4I	0.25	0.18	0.18	0.12	0.13	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK601	4I	0.17	0.15	0.13	0.10	0.11	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK602	1L	0.18	0.09	0.04	0.04	0.09	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK603	1L	0.49	0.22	0.29	0.16	0.35	1.暗褐色土(10YR3/3)
SK604	6H	0.43	0.33	0.20	0.15	0.07	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK605	6H	0.70	0.57	0.47	0.45	0.08	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK606	6H	0.88	0.65	0.68	0.41	0.17	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK607	5H	0.28	0.24	0.14	0.06	0.23	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK608	5H	0.83	0.30	0.38	0.09	0.25	1.黒褐色土(10YR2/3)
SK609	1L	0.21	0.17	0.08	0.06	0.09	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK610	1L	0.32	0.22	0.13	0.08	0.19	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK611	5I	0.30	0.14	0.19	0.06	0.13	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK612	5I	0.27	0.18	0.16	0.08	0.10	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK613	5I	0.31	0.19	0.24	0.11	0.14	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK614	4I	0.39	0.22	0.27	0.12	0.23	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK615	4I	0.23	0.18	0.11	0.06	0.18	1.黒褐色土(10YR2/2)
ST616	5H	6.36	0.11	5.93	0.06	0.04	本文参照
SD617	1K	0.48	0.21	0.45	0.14	0.03	1.暗褐色土(10YR3/4)
SD618	1K	0.70	0.13	0.58	0.06	0.04	1.暗褐色土(10YR3/3)
SK619	1K	0.18	0.16	0.12	0.06	0.08	1.暗褐色土(10YR3/3)
SK621	99J	0.45	0.24	0.24	0.17	0.09	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK622	99I	0.36	0.23	0.19	0.08	0.11	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK623	99I	0.48	0.36	0.14	0.10	0.24	1.黒褐色土(10YR2/2)
SK624	1K	0.27	0.26	0.15	0.09	0.16	1.黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(10YR2/3)含
SD625	1L	0.81	0.16	0.68	0.04	0.18	1.暗褐色土(10YR3/3)
SD626	1L	0.55	0.09	0.21	0.03	0.10	1.暗褐色土(10YR3/3)
SK627	1K	0.46	0.18	0.32	0.15	0.25	1.黒褐色土(10YR2/2)

第11表 遺物観察表(縄文土器)

番号	取上 番号	遺構 層位	分類	器種	胎土	砂粒 混入	焼成	色調(外面)	観察事項
1	233	SB7	1-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい橙色(7.5YR6/4)	押型文(市松文) 原体は2単位
2	227	SB7	1-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄橙色(10YR6/3)	押型文(市松文) 原体は2単位 掲載番号1と同一の可能性あり
3	200	SB7	3-2	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄橙色(10YR6/3)	口縁部に櫛歯状工具による有刻隆帯 下部に条線文
4	221	SB7	3-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR5/3)	横位に交互刺突と矢羽根状沈線文
5	223他	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	橙色(7.5YR7/6)	口縁部から屈曲部へ沈線で精円区画
6	243	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	褐灰色(10YR5/1)	キャリバー器形 条線を地文にし弧状の沈線文
7	248	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR5/4)	縦横に隆帯と半截竹管による沈線文
8	219他	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	橙色(7.5YR6/6)	矢羽根状沈線文の下部に縦位の沈線文
9	273他	SB7	3-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR5/4)	隆帯脇に横位の沈線文 下部に縦位の沈線文
10	302	SB7	3-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/4)	横位に隆帯文
11	244	SB7	3-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR6/4)	区画内に縦位沈線文
12	311	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	黒褐色(10YR3/2)	縄文(LR)施文し縦位沈線文
13	274	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	黒褐色(10YR3/2)	縄文(LR)施文し半截竹管による沈線文
14	250	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	黒褐色(5YR3/1)	縄文(LR)施文し半截竹管による沈線文
15	310	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR5/4)	縄文(LR)施文し半截竹管による沈線文
16	339	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰褐色(7.5YR5/2)	縄文(LR)施文し半截竹管による沈線文 SF554内出土
17	329	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/4)	縦位沈線文下部に縄文(LR) P556内出土
18	272	SB7	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/3)	縄文(LR)
19	314	SB7	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/4)	縄文(RL)
20	196他	SB7	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR6/4)	縄文(RL)
21	292他	SB7	6-1	深鉢	標準	標準	標準	明黄褐色(10YR7/6)	捺糸文
22	298他	SB7	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/3)	口縁部から胴部縄文(LR)
23	247他	SB7	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR6/3)	斜位縦位に条線文
24	306	SB7	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/4)	縦位条線文
25	256	SB7	6-4	浅鉢	標準	標準	標準	橙色(7.5YR6/6)	無文
26	268	SB7	6-5	深鉢	標準	標準	標準	にぶい赤褐色(5YR5/4)	底部に爪痕
39	400	SB8	3-3	深鉢	標準	標準	標準	褐色(7.5YR4/3)	矢羽根状沈線文 P594内出土
40	79	SB8	6-1	深鉢	標準	標準	標準	黄灰色(2.5Y5/1)	縄文(RL)
41	77	SB8	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR6/4)	斜位条線文 SF501内出土
42	78	SB8	6-5	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/4)	底部に網代圧痕 SF501内出土
52	363	SD577	6-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄褐色(10YR4/2)	縄文(RL)
53	185	SK517	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/3)	縄文(LR)
54	285	SK540	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい赤褐色(5YR5/4)	矢羽根状沈線文と縦位沈線文
55	187	SK509	4	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/3)	口縁部L字状の波頂部に渦巻き状の沈線文
56	366	SK522	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/3)	縄文(LR)施文し棒状工具による刺突
58	264	1KIV	1-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/3)	押型文(山形文)
59	26	1KIV	1-1	深鉢	標準	標準	標準	灰黄褐色(10YR5/2)	押型文(山形文)
60	51	1LIV	1-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/4)	押型文(山形文)
61	2他	1JIV	1-2	深鉢	標準	標準	標準	橙色(7.5YR6/6)	尖底 縄文(RL)
62	11	1KIV	1-2	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/4)	尖底 縄文(LR)
63	7	1KIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	褐色(7.5YR4/4)	横位沈線と隆帯
64	64	1KIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰褐色(7.5YR4/2)	縄文(LR) 半截竹管による沈線文
65	39	1KIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰褐色(7.5YR4/2)	地文は縄文(LR) 縦位隆帯と半截竹管による沈線文
66	9	1KIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR6/4)	地文は縄文(LR) 縦位隆帯と半截竹管による沈線文
67	23	1KIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄褐色(10YR5/2)	半截竹管による沈線文
68	57	1LIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/4)	斜位に隆帯と沈線文
69	8	1KIV	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/3)	縦位に隆帯と条線文
70	43他	1KIV	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR7/4)	口縁部から胴部に弧状に条線文 胴部下に縦位の条線文
71	17	1JIV	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/3)	縄文(RL) 口唇部に縄文
72	20	1JIV	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR6/3)	縄文(RL) 口唇部に有刻
73	10	1KIV	6-1	深鉢	標準	標準	標準	明黄褐色(10YR7/6)	縄文(LR)
74	19他	1KIV	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/3)	縄文(RL)と沈線文
75	36	1KIV	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR7/3)	縄文(RL)
76	67他	1KIV	4	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR5/4)	口縁部突起部上下に管状の刺突 縄文(RL)施文し横位沈線文
77	111	5IⅢ	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR5/4)	刺突列
78	162	5IⅢ	3-3	深鉢	標準	標準	標準	灰黄褐色(10YR6/2)	有刻隆帯 半截竹管による沈線文
79	122	5IⅢ	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR5/4)	縄文(LR)
80	105	5IⅢ	3-3	深鉢	標準	標準	標準	にぶい黄褐色(10YR4/3)	横位隆帯
81	114他	5HⅢ	6-1	深鉢	標準	標準	標準	にぶい褐色(7.5YR6/4)	縄文(LR)

第12表 遺物観察表(石器)

番号	取上 番号	遺構 層位	器種名	石 材	法 量				備 考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	質量(g)	
28	410	SB7	石 鎌	黒曜石	18.0	12.5	2.2	0.4	SF554内出土
29	315	SB7	石 鎌	下呂石	(12.0)	10.0	2.9	(0.2)	
30	249	SB7	スクレイパー	チャート	65.0	38.0	12.0	29.1	
31	295	SB7	磨製石斧	蛇紋岩	92.0	(48.0)	19.0	(172.1)	
32	271	SB7	磨製石斧	蛇紋岩	93.0	38.0	16.0	(120.1)	
33	353	SB7	磨製石斧	蛇紋岩	(84.0)	47.0	16.0	(110.1)	
34	230	SB7	磨製石斧	濃飛流紋岩	(92.0)	(49.0)	22.0	(188.1)	
35	290	SB7	磨製石斧	蛇紋岩	50.0	33.0	8.0	27.2	
36	231	SB7	石 皿	安山岩	(236.0)	206.0	78.0	(5450.0)	
37	293	SB7	磨 石	溶結凝灰岩	128.0	75.0	55.0	764.4	
38	325	SB7	磨 石	安山岩	121.0	106.0	63.0	1028.0	
83	4他	1KIV	磨 石	砂 岩	128.0	91.0	66.0	978.5	
84	66	1KIV	石 錐	チャート	30.0	13.0	7.8	3.0	
85	60	1KIV	凹 石	安山岩	910.0	800.0	30.0	311.3	
86	238	1KIV	磨 石	花崗岩	11.0	94.0	32.0	508.6	
87	214	1KIV	砥石	砂 岩	(56.0)	(43.0)	(33.0)	(78.2)	
88	131	5HIII	磨製石斧	蛇紋岩	61.0	29.0	8.3	25.1	
89	161	6IIII	磨製石斧	蛇紋岩	48.5	24.5	10.9	19.8	

第13表 遺物観察表(縄文土器以外の土器)

番号	取上 番号	遺構 層位	種 別	器種	法 量(cm)					胎土	砂粒	焼成	色調(外面)	観 察 事 項
					口 径	器 高	底 径	台 径	底部 残存率 (X/12)					
27	308	SB7	弥生土器	鉢						標準	標準	標準	にぶい橙色 (5YR6/3)	体部外面縦方向に櫛描波状文
43	388	SB8	弥生土器	甕						標準	標準	標準	橙色 (7.5YR6/6)	体部貝殻条痕文
44	351	SD504	弥生土器	器台						標準	標準	標準	にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	内面横方向にわずかなナデ
45	382	SD513	弥生土器	器台						標準	標準	標準	にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	内面横方向にわずかなナデ
46	362	SD577	弥生土器	甕						標準	標準	標準	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	頸部に擬凹線が施され内面横 方向に板ナデ
47	376	SD513	弥生土器	甕						標準	標準	標準	橙色 (5YR6/6)	口縁部内外面に板ナデ
48	365	SD577	弥生土器	甕						標準	標準	標準	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	体部内面横方向外面縦方向に 板ナデ
49	359	SD577	弥生土器	甕						標準	標準	標準	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	体部内外面縦方向に板ナデ
50	364	SD577	弥生土器	器台						標準	標準	標準	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	脚部内外面斜め方向にハケ目
51	347	SD577	弥生土器	甕			5.8		12/12	標準	標準	標準	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	底部内面ナデ外面斜め方向に 板ナデ
57	218	SK528	弥生土器	甕			(7.4)		6/12	標準	標準	標準	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	底部内外面横方向に板ナデ
82	88	5HII	須恵器	つまみ 蓋						標準	標準	標準	灰色 (7.5Y6/1)	体部内面回転ナデ 外面回転ヘラ削り

参考文献

- 赤塚次郎 2005 「東海地域の方形周溝墓」『方形周溝墓研究の今』、雄山閣
- 阿部朝衛 1987 「磨製石斧生産の様相」『史跡寺地遺跡』、新潟県青海町
- 石川日出志 1995 「飛驒の弥生中期横羽状文甕」『飛驒と考古学』、飛驒考古学会
- 伊藤敏行 2005 「宇津木向原遺跡と関東の方形周溝墓」『方形周溝墓研究の今』、雄山閣
- 伊藤敏行 1996 「個別形態論」『関東の方形周溝墓』、同成社
- 春日井恒 2001 「岐阜県における生業関係遺構の現状」『第3回関西縄文文化研究会関西縄文時代の生業関係遺構』発表要旨集(獲得・加工・貯蔵・廃棄の諸相)、関西縄文文化研究会
- 加納俊介・石黒立人編 2002 『弥生土器の様式と編年－東海編－』、木耳社
- 下呂町教育委員会 1985 『下島遺跡発掘調査報告書』
- 国府町教育委員会 1995 『南垣内遺跡』
- 小林達雄編 1988 『縄文土器大観』2(中期Ⅰ)、小学館
- 小林達雄編 1988 『縄文土器大観』3(中期Ⅱ)、小学館
- 小林達雄編 1989 『縄文土器大観』4(後期 晩期 続縄文)、小学館
- 岐阜県教育委員会 1999 『岐阜県文化財図録』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1995 『西ヶ洞遺跡・西ヶ洞古墳群』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2000 『岩垣内遺跡』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2003 『寺平遺跡』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2004 「特集飛驒の弥生文化」『きずな41号』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005 『上岩野遺跡』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005 『岐阜県新発見考古速報2005』(平成17年度岐阜県発掘調査報告会)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006 『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007 『野内遺跡A地区』
- 下畑五夫 2002 「遺跡の地学的環境(おもに地形と地質)」『大江遺跡・寿楽寺廃寺跡』、財団法人岐阜県文化財保護センター
- 鈴木元 2002 「美濃の弥生墓制」『美濃の考古学』第5号、美濃の考古学刊行会
- 高山市教育委員会 1978 『ツルネ遺跡発掘調査報告書』
- 中村友博 1987 「水神平式土器」『弥生文化の研究』4(弥生土器Ⅱ)、雄山閣
- 成瀬正勝 2001 「横穴式石室の導入」『美濃・飛驒の古墳とその社会』、同成社
- 八王子市南部地区遺跡調査会 1997 『南八王子地区遺跡調査報告11』
- 福井県教育委員会 1979 『鳥浜貝塚』(縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査1)
- 古川町教育委員会 1991 『上町遺跡D地点発掘調査報告書』
- 古川町教育委員会 1993 『中野山越遺跡発掘調査報告書』
- 古川町教育委員会 1998 『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』
- 八百津町教育委員会 1991 『和知城址造道遺跡(縄文)』(公園造成工事に伴う事前の発掘調査報告書)



北区遠景 西から



南区遠景 西から



7号住居跡・8号住居跡全景 西から



7号住居跡石囲炉 西から



7号住居跡周壁溝 北東から



7号住居跡出土遺物(33) 東から



8号住居跡 南西から



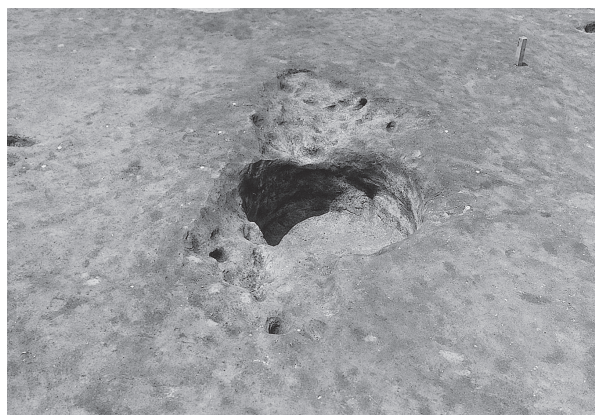
2号方形周溝墓全景 北から



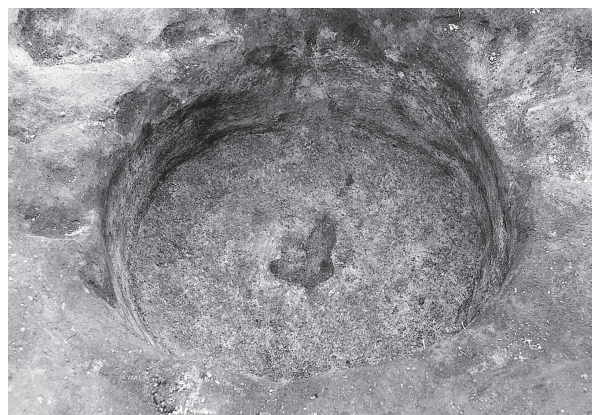
周溝(SD577) 北から



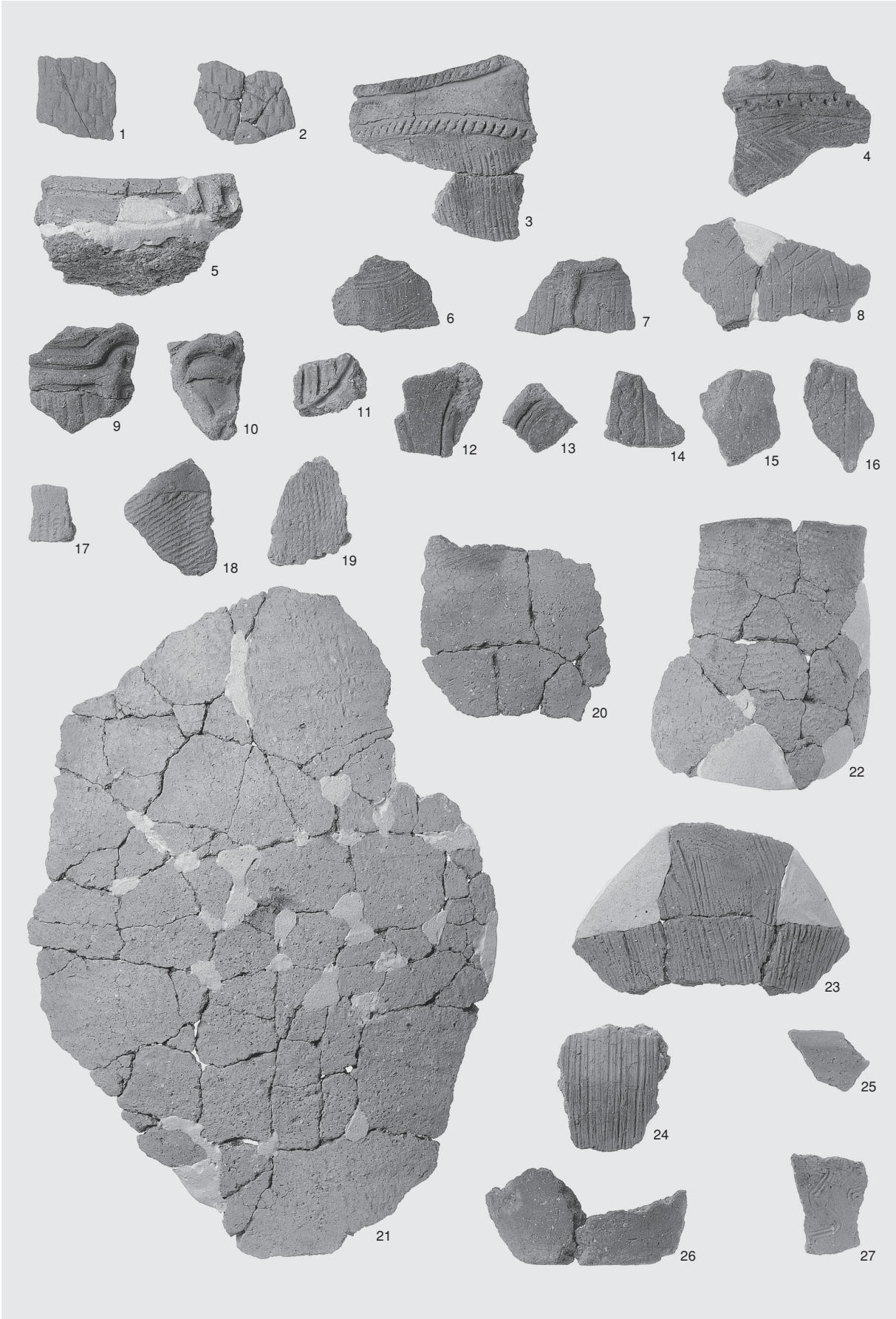
周溝(SD504) 北から



周溝(SD513)・土坑(SK598) 東から



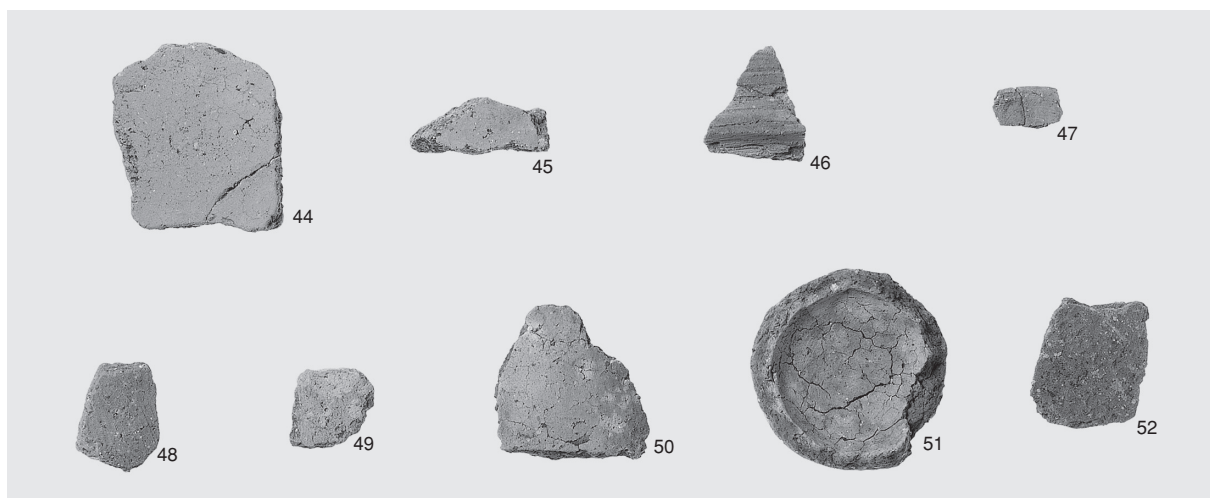
土坑(SK598) 北東から



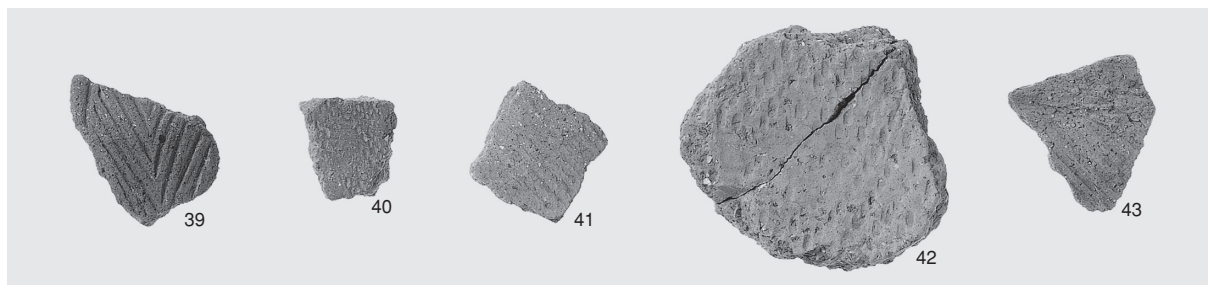
7号住居跡出土遺物 ①



7号住居跡出土遺物 ②



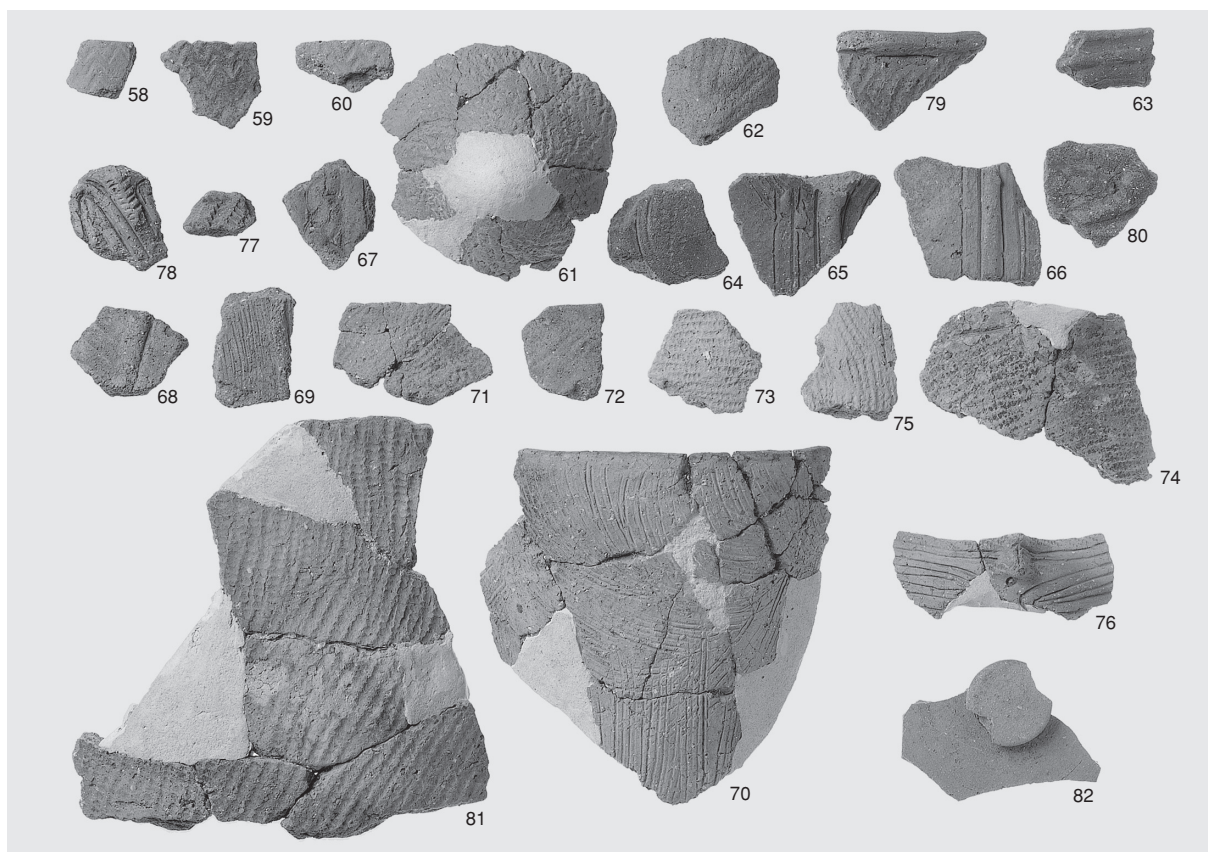
2号方形周溝墓出土遺物



8号住居跡付近遺物包含層出土遺物



土坑出土遺物



遺物包含層出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なかのおおほらだいらいせきⅡ							
書名	中野大洞平遺跡Ⅱ							
シリーズ名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書							
シリーズ番号	第107集							
編著者名	渡邊 稔							
編集機関	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター							
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL 058-237-8550							
発行年月日	西暦2007年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかのおおほらだいらいせき 中野大洞平遺跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市	21217	06535	36°	137°	20060501	380㎡	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業(古川南部2期地区)に伴う
	ふるかわちよう 古川町			14'	09')		
	なかの 中野			38"	31"	20060629		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中野大洞平遺跡	集落跡	縄文時代) 奈良時代	竪穴住居跡	2軒	縄文土器	830点	縄文時代中期の竪穴住居跡と陥し穴状遺構、弥生時代後期の方形周溝墓を検出	
			方形周溝墓	1基	弥生土器	26点		
			陥し穴状遺構	1基	土師器	4点		
			畝状遺構	1基	須恵器	10点		
					近世陶磁器	1点		
					石器	98点		
要約	<p>北区では、弥生時代後期の方形周溝墓の周溝を検出した。平成14年度の調査結果と今回の調査を合わせると、8m×7.2mの方形周溝墓全体の平面プランが明らかになった。また、底部に小穴1基を伴う陥し穴状遺構を検出した。陥し穴状遺構は、方形周溝墓に切られており、弥生時代後期以前に位置付けられる。</p> <p>南区では、竪穴住居跡を2軒検出した。そのうち1軒は、縄文時代中期の竪穴住居跡で、床面からは8本の柱穴及び石囲炉を検出し、住居内からは磨製石斧が5点出土した。</p>							

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 第107集

中野大洞平遺跡Ⅱ

2007年3月20日

編集・発行 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1

印刷 高山印刷株式会社